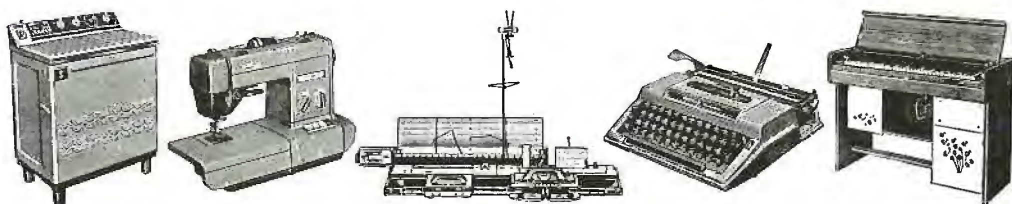


練習が技術をつちかい 技術が信頼を支える

きょうの反省を、あすの練習に、試合に結びつける……スポーツマンにとって、大切な心がまえです。常により高度な技術をめざしてチャレンジする――それはブラザーが目ざしているものと一致します。技術がチームメートの信頼を支えるように、お客さまの信頼に応えるのは、高度な技術に支えられた品質以外にないのですから――。

BROTHER
ブラザー

ブラザー工業株式会社
ブラザーミシン販売株式会社



春告げる初の「高校選抜」（26日から名古屋で）

全日本女子も1戦　西ドイツから二クラブが来日

楽しそうなスケジュールがずらりと並んだ――春を迎えた日本ハンドボール界は、初の全国高校選抜大会（3月26～28日・愛知県体育館）をハイライトに、西ドイツから男女名門2クラブが下旬に同時来日するほか、国内最強チームを集めた第18回全日本実業団選手権（3月21～24日・愛知県体育館）が、男女とも〝本命なし〟と云われる激戦をくりひろげる。

これまで、8月の全国大会ラッシュ最頂点だったハンドボール界に、新たに「3月」というビッグシーズンが誕生したわけだ。

女子では今冬の世界選手権を目指す女子ナショナルチームが、浜松で対戦するのも注目される。

三つのビッグイベントのうち、もっとも、期待の目が注がれているのは「第1回全国高校選抜大会」だ。

夏のインター・ハイのほかに、高校選手の目標となる全国大会をという声は久しかっただけに、日本ハンドボール界、高校界とも待望の〝開幕〟である。

すでに、各地の代表10校は勢揃い、「初優勝」に意欲満々だ。

男子では長身選手（平均身長182cm）を揃えた久留米工大附（九州）昨年の全国大会経験者を多く残す岩国工業（中国）、得点力のある此花学院（近畿）、新居浜工業（四国）らが有力で西高東低型だが、パワーの富岡（関東）、昨年国体優勝の氷見（北信越）らがどう巻き返すかも注目されるところ。久方ぶりの名門復活の桜台（開催地）だが一回戦を勝てればというところ。毎年のインターハイでは〝暑さ〟のハンデをいわれてきた北国の各チームは、今大会はそのハンデが無く函館有斗、学法石川あたりがどこまでやれるかも見ものだ。

女子では、熊本女商（九州）と小松市女（北信越）が二強という前評判だが、この両校が二回戦で喰い合ってしまうので新居浜市立商（四国）、名門復活の栃木女（関東）らがどう絡んでくるかが焦点だろう。

初顔だが名古屋短大付（開催地）、城南学園（近畿）らもよく走り、注目のチーム。

男女ともに名門と新星の集まる大会となった。体育館でのゲームの慣れも勝敗を大きく左右するポイントとなろう。

第1回全国高校選抜大会

（○内数字は日付）

〔男子〕

チーム	日時
此花学院（近畿・大阪）	㉘15：20
新居浜工（四国・愛媛）	㉖11：00
富岡（関東・郡馬）	㉗12：00
学法石川（東北・福島）	㉖13：10
桜台（開催地）	㉘16：00
県岐阜商（東海・岐阜）	㉖13：10
岩国工（中国・山口）	㉗13：10
函館有斗（北海道）	㉖11：00
氷見（北信越・富山）	㉖15：20
久留米工大附（九州・福岡）	

〔女子〕

チーム	日時
涌谷（東北・宮城）	㉖16：30
栃木女（関東・栃木）	㉖12：10
名古屋短大付（開催地）	㉗10：00
函館商（北海道）	㉖14：20
徳山（中国・山口）	㉘15：00
城南学園（近畿・大阪）	㉖14：20
新居浜市商（四国・愛媛）	㉗11：00
熊本女商（九州・熊本）	㉖12：10
静岡城北（東海・静岡）	㉖16：30
小松市女（北信越・石川）	

第18回全日本実業団選手権

（○内数字は日付）

〔男子〕

チーム	日付
大同特殊鋼高蔵（愛知）	㉑
三景（東京）	㉑
大崎電気（埼玉）	㉒
トヨタ車体（愛知）	㉑
大同特殊鋼（愛知）	㉔
湧永薬品（大阪）	㉑
三陽商会（東京）	㉒
日新製鋼呉（広島）	㉑
本田技研鈴鹿（三重）	

〔女子〕

チーム	日付
立石電機（熊本）	㉑
東京重機（東京）	㉒
日立栃木（栃木）	㉑
北国銀行（石川）	㉑
ブラザー工業（愛知）	㉔
大崎電気（埼玉）	㉑
大和銀行（大阪）	㉑
ジャスコ（三重）	㉒
東北ムネカタ（福島）	㉑
日本ビクター（茨城）	

※23日は男女とも3位をかけた「敗者トーナメント」の準決勝を予定。

日本―西ドイツ国際親善試合日程

（○印は女子時間は一部予定）

日時	対戦	会場
25日(土)16：00	○ＶＦＲ・マンハイム――大和銀行	（大阪東淀川体育館）
26日(日)14：00	○ＶＦＲ・マンハイム――ジャスコ	（四日市市体育館）
15：15	ＶＦＬ・コヘッペンハイム――本田技研鈴鹿	
28日(火)18：00	○ＶＦＲ・マンハイム――ブラザー工業	（愛知県体育館）
19：15	ＶＦＬ・ヘッペンハイム――大同特殊鋼	
30日(木)18：00	○ＶＦＲ・マンハイム――全日本女子	（浜松市営体育館）
19：00	ＶＦＬ・コヘッペンハイム――全浜松	

【表紙写真】

二月二十七日（月）夜九時羽田空港貴賓室にて――欧州遠征出発に際し、見送りの菅関東学連会長（右）と固い握手を交わす福地団長。

今号もくじは、9頁にて掲載しております。

世界選手権

日本、あと一歩で8強入り逃す

優勝は西独　各試合、前半の健斗実らず

【コペンハーゲン（デンマーク）にて深江幸次郎編集委員】日本は世界最強の東欧勢をあと一歩のところまで追いこみながら、惜しくもはね返され、悲願のベストエイト進出は、今度こその期待をふくめて二年後のモスクワ・オリンピックまで、おあずけになった——第9回世界男子選手権Aグループは1月25日から2月5日まで、デンマークに、世界の精鋭16カ国が集まり、熱戦を展開した。

主力の若返りをはたした日本は予選リーグD組で、強豪ポーランド、スウェーデンと激闘を演じ、再三、勝機をつかみながら、終盤、相手の必死の反撃にあって押し返されて2敗、ブルガリアから勝利をあげたものの、今回も、準決勝リーグ（ベストエイト）へ進めなかった。

9〜12位決定リーグでも日本は善戦しながら、最後の詰めをかいて、チェコとの引き分けはあったものの、勝ち星がなく、結局12位に終った。

注目の優勝争いは、若手で固めた西ドイツと、オリンピックとの二冠を狙うソ連の決勝となり西ドイツが接戦をものにし、一九三八年の第1回以来39年ぶりで、王座に返り咲いた。

三連覇を狙っていたルーマニアは苦戦の連続で、辛くも7位を確保した。

なお、日本代表チーム（幸田末之団長、竹野奉昭監督ら役員5選手14名）は、2月8日午後、帰国した。

4点のリード空し

予選リーグD組

日本の第1戦（遠征第15戦）・ポーランドとの試合は、1月26日午後8時30分からコペンハーゲンのブロンデイホールで行われた。審判＝ラウクフス、ブクダ（東ドイツ）

ポーランド　26（13—13、13—8）21　日本

得	日本		ポーランド（身長）	得
0	柴田	GK	スルサク・196cm	0
0	福井	GK	ボジャク・188	0
1	津川	FP	クレムペル・194	9
0	柳川	FP	ビジンガー・	2
4	蒲生	FP	ブルゾゾウスキー・175	3
5	花輪	FP	プルジイブス・190	4
3	中井	FP	グミレク・180	1
2	穂積	FP	カルジンスキー・190	2
6	佐藤	FP	ガルピエル・181	2
0	斉藤	FP	ココツ・	0
0	中本	FP	クレッカ・188	3
0	志賀	FP	スマガッス・185	0
21	（5）	PT	（0）	26

○……立ちあがり2点のリードを許した日本は中井のシュートで緊張をほぐした。

6分には佐藤、津川で同点（3—3）、一進一退を繰り返した。24分には蒲生が決めて13—9と4点のリード、ムードは最高潮。しかし、残り7分の攻防が、この試合の岐れ目につながった。魔がさしたのか、パスが乱れ、足が止まった。

せっかく釣りあげた大魚をビクに入れそこない水に逃したのである。あっという間に13—13。

○……同点で後半を迎えたものの気落ちした日本は、ハーフタイムで未練を捨て切れず、ポーランドに先行された。だが、日本も自力で互角にもちこむ。

15分佐藤がPTを決めて1点差としたが、そのあとオーバータイムをとられ、ペースが再び狂った

ポーランドはエース・クレムペルにボールを集め、残り5分間で3点を強引に奪い、ベストエイトを狙う日本の出鼻をくじいた。

○……しかし、日本は中井主将を中心によく戦った。なかでも5本のPTをすべて成功させた佐藤はポーランドの誇る名GKボージャックをほんろうしたし、花輪のプロンジョン・シュートは場内を沸かしつづけ、全体の流れは、日本が押し気味であった。

また、課題といわれるディフェンスも好調で、特に穂積の動きのよさが、〝善戦〟の大きな因としてあげられる。（深江）

また後半開始後崩れる

日本の第2戦・スウェーデンとの試合は28日午後3時からケーグで行われた。審判＝リカルト、イッシャー（スイス）、観衆＝一千二百五十

スウェーデン　24（10—10、14—10）20　日本

○……日本選手に緊張感がありすぎた。ポーランドに善戦しながら大魚を逸したことが、やはり選手たちに微妙に影響、すべてを慎重にさせてしまった。この試合に勝たねば——という重圧が強すぎたそれがプレーの上で裏目々々に出てしまうのである。

それが、立ちあがり3分間で0—3とされた劣勢にあらわれた。

得	日本		スウェーデン	得
0	柴田	GK	ヘルグレン・185cm	0
0	須波	GK	カールソン・184	0
4	佐藤	FP	Bj・アンデルソン・198	0
1	中井	FP	Bo・アンデルソン・179	2
4	花輪	FP	アブラハムソン・191	0
7	蒲生	FP	J・アンデルソン・190	2
3	穂積	FP	アウグストソン・182	3
0	津川	FP	エリクソン・186	5
0	柳川	FP	グスタフソン・181	5
1	斉藤	FP	ハカンソン・185	3
0	中本	FP	ジョンソン・188	4
0	志賀	FP	ラスミューゼン・184	0
20	（2）	PT	（4）	24

忘然とする日本勢をよみがえらせたのは蒲生の豪快な中央攻撃。これでようやく立ちなおれた。17分蒲生のロングで同点（5—5）。

○……目まぐるしくメンバーを代え懸命に自ペースへ日本を引きこもうとするスウェーデンは、20分すぎ先行したが、日本もよく追い佐藤がPTで9—10、さらに前半終了まぎわ、再び佐藤が左サイドからみごとなアンダーハンドシュートをゴンルに突き刺し同点（10—10）。日本はたしかに強くなっている。

○……後半の立ちあがり、気をつけなければいけないという気持ちが、固さをよび、また拙いプレーがつづく。2点を先行される。

後手にまわる日本は8分のPTを佐藤が決め反撃の態勢。だがスウェーデンも、ここで日本に勢い

づかせてはとばかり、強引な突進をみせ、日本が1点とると2点を奪うといった展開で19分14－19と日本は苦しくなる。

○……日本は踏んばった。19分蒲生のロング、20分中井の速攻で16－19と望みをつなぐ。

だが、22分17－20のあと連続2点を失ったのが痛く、そのあと穂積のみごとな一人時間差による2ゴール、28分ダブルスカイによる花輪のゴール（20－23）などあったものの、無情な〝時計〟は、容しゃなく、日本の悲願ベストエイト進出の夢を、秒一秒と冷めたく突きはなしてしまった。（深江）

世界選手権代表チーム

・団　長　幸田　末之　日本協会男子強化部長
・監　督　竹野　奉昭　日本協会強化委員
・コーチ　東　　嘉伸　日本協会強化委員
・コーチ　本田　　洋　日本協会強化委員

	背番号	氏名	年齢・所属	身長	体重	世	公	親	
・GK	①	福井　秀人	(27才・湧永薬品)	180cm	74kg	(1)	(1)	(1)	⑬
	⑫	柴田　正章	(24　本田技研鈴鹿)	185	75	(0)	(0)	(0)	㊲
	※⑯	須波　雅人	(21　筑波大)	184	78	(0)	(0)	(0)	⑤
・FP	②	津川　昭	(26　湧永薬品)	180	77	(7)	(17)	(21)	⑱
	※③	志賀　良弘	(21　大阪体大)	187	88	(0)	(0)	(7)	⑪
	④(主)	中井武三	(28　大同特殊鋼)	180	75	(11)	(36)	(20)	㊹
	⑤	佐藤　要二	(28　本田技研鈴鹿)	181	86	(24)	(38)	(21)	57
	⑥	斉藤　幸司	(24　大崎電気)	175	80	(7)	(15)	(13)	㉔
	⑦	花輪　博	(27　大同特殊鋼)	176	76	(25)	(17)	(12)	54
	⑧	柳川　実	(24　大同特殊鋼)	175	71	(1)	(9)	(13)	㉟
	⑨	穂積　豊彦	(25　湧永薬品)	180	77	(17)	(15)	(3)	㉜
	⑩	中本　満明	(23　大同特殊鋼)	184	80	(0)	(1)	(4)	⑳
	⑪	蒲生　晴明	(23　大同特殊鋼)	192	88	(36)	(51)	(33)	56
	⑭	池之上孝司	(22　日体大)	185	72	(1)	(3)	(14)	⑬

・氏名左の○内数字は今回の背番号
・世（　）内は世界選手権での合計得点
・公（　）内はスペイン国際を含む公式戦試合の合計得点
・親（　）内は親善試合9戦の合計得点
・右欄○内数字は今回終了までの公式国際試合出場回数
～以上いずれも本誌調べ～

ブルガリアをねじ伏せる

日本の第3戦・ブルガリアとの試合は29日午後2時からナエストフトで行われた。審判＝イッシャー、リカルト　観衆＝七百五十六

日本 23（12－9、11－11）20 ブルガリア

【日本】	得		得	【ブルガリア】	
福井	0	GK	0	ピソフ	183cm
柴田	0		0	ラザロフ	179
佐藤	3	FP	2	ザネフ	185
中井	1		1	フブトスチエフ	183
花輪	3		4	ボデンスキー	191
蒲生	9		2	アラドヨフ	170
穂積	2		5	アスパルチョフ	186
津川	2		1	ゲオルギエフ	178
斉藤	2		1	ブラスチェフ	194
中本	0		2	ディエネフ	184
池之上	0		2	ドウスチノフ	180
柳川	1		0	ナトスチェフ	177
(5)	23	PT	20	(5)	

○……3戦目にして、初めて日本が先取点をあげた。5分、津川が中央からステップシュート。

ブルガリアも6、7分日本ゴールを襲ったが、日本には余裕があった。相手の中心選手・左腕のアラドヨフを柳川が徹底的に防いだボールの出所（でどころ）を封じられたブルガリアは苦しい。

しかし、日本にはどの試合も訪れる〝エアポケット〟が、この試合にもやはりあった。20分すぎ7－5とリードのあと、反撃をうけて27分8－10と逆転されてしまったのだ。

○……すぐはね返すだけの力が日本についてはいるものの、このような一瞬の乱れは、ベンチも手が打てない。

27分花輪、28分佐藤(PT)、29分蒲生で、一気にタイ（11－11）としたものの、このラッシュが、先行している時に出れば、主導権を奪えるのだが、このリズムの前に訪れる崩れが、同点どまりの攻撃にしか実らないのである。

○……後半のはじめ、津川が反則退場というハンデがあったが、その津川が、ペナルティがとけてコート上に戻ったところへ相手パスが通り難なくカット、蒲生へつないで12－11。なにが幸いになるかわからない。

こういうプレーは、味方の気持ちをリラックスさせるし昂じさせる。プロンジョン、スカイと随所に持ち味を発揮して日本はリードを奪いつづける。

○……ブルガリアもこの一戦を落とせば9位リーグにも残れずとあって必死に攻めこみ、日本は24分18－19と逆転されてしまった。

だが、日本の気力が優り25分斉藤で同点、26分蒲生で再びリード（20－19）と、残り1分を切ってさらに2点を加え、ブルガリアをねじ伏せた。

場内は終始日本への声援でわき勝利と同時に、全員がコブシを固く握りしめて天井へ向けると、大歓声がこれに応えた。

日の丸が大きく見えた……。（深江）

〃　〃　〃　〃　〃　〃　〃　〃

控室に陽気な声もどる

□……善戦してははね返され、ま

「モスクワ」はアジア予選（来年）にかかる

ＩＨＦ（国際ハンドボール連盟）は、大会終了後、規定どおり、この大会の上位6カ国――西ドイツ、ソ連、東ドイツ、デンマーク、ユーゴ、ポーランドに二年後のモスクワ・オリンピック出場権を与えるとともに、すでに出場権を自動的にもつ開催国ソ連がこのなかに含まれたため、7位ルーマニアにも、その権利がおりた。

モスクワオリンピックの男子は12カ国参加で行われ、残る5カ国はヨーロッパから2カ国、アジア、アフリカ、アメリカ大陸から各1カ国となっており、日本は来年に予定されているアジア地域予選に望みを託すこととなった。

いまのところアジア予選に関する発表はいっさい行われていないが、モスクワオリンピックが、モントリオール時と同じ時期、すなわち早ければ来年の三～四月に行われるだろう。のため、大陸予選もモントリオールと同じ七～八月開催

日本協会は、早々にＩＨＦと連絡をとり、強化方針をたてたいといっている。

るでお通夜のようだった前二戦とちがって、この試合のあとの日本チーム控室は、にぎやかな声と景気のいい会話がとんだ。

そのなかでコーチングスタッフは喜びよりも、ほっとした表情。幸田団長が「この一戦を落としたら日本の皆さんに申しわけなくて丸坊主で帰国だなあと思ってました。本当にみんなよくやってくれました。こうなるとポーランド、スウェーデン戦に悔いがいっそう残ります」といえば、竹野監督も「デンマークの人たちがこんなに応援してくれて感激です。それに応えられて……。みんなよくやりました」と声をつまらす。

（深江編集委員発）

◇D組このほかの試合

スウェーデン 31（17－6, 14－10）16 ブルガリア

ポーランド 28（8－15, 20－7）22 ブルガリア

ポーランド 22（12－7, 10－10）17 スウェーデン

＜得点者＞【ポ】クレムペル12、カルジンスキー4、ブルゾゾウスキー、クレッカ各2、プルジイブスグミレク各1

【ス】ジュンソン4、エリクソン、ハカンソン、リベンダール各3、ハンソン2、アウグストソン、ラスミューゼン各1

【順位】①ポーランド3戦全勝②スウェーデン2勝1敗～以上準決勝リーグへ進出～③日本1勝2敗④ブルガリア3敗

9～12位決定リーグ

日本の第1戦・スペイン（C組3位）との試合は1月31日午後7時からロンドンで行われた。審判＝ボルスタット、ラーセン（ノルウェー）

スペイン 26（12－5, 14－10）15 日本

得	【日本】		【スペイン】		得
0	柴田	GK	ペラモン	187cm	0
1	福井	GK	パゴアーカ	181	0
2	中井	FP	プエンテ	183	2
1	佐藤	FP	シンカ	186	3
4	蒲生	FP	スアレス	194	4
3	花輪	FP	M・ロペス	179	0
1	穂積	FP	ベホバイド	191	7
2	津川	FP	フェルナンデス	180	3
0	柳川	FP	B・ロペス	178	0
0	斉藤	FP	バジェリカ	191	1
0	中本	FP	P・ロペス	179	4
1	池之上	FP	グエラ	182	2
15	（1）	PT	（1）		26

魔がさす後半のスタート

日本の第2戦・ハンガリー（B組3位）との試合は2月2日午後7時30分からナイコピングで行われた。審判＝ジェジオルニイ、アルシスチエフスキー（ポーランド）観衆＝千二百

ハンガリー 30（15－10, 15－16）26 日本

得	【日本】		【ハンガリー】		得
0	柴田	GK	バルタロス	184cm	0
0	須波	GK	ベロシ	190	0
1	津川	FP	ブダイ	192	2
6	穂積	FP	コバクス	197	7
2	中井	FP	スザホ	193	1
2	花輪	FP	スホルトス	179	1
8	佐藤	FP	シラギイ	183	8
5	蒲生	FP	ケニエレス	179	1
0	柳川	FP	モルナー	188	2
0	志賀	FP	グバニイ	189	1
0	中本	FP	コンラ	187	3
2	斉藤	FP	コクシス	186	4
26	（3）	PT	（3）		30

引き分けに持込むも12位

日本の第3戦（遠征最終戦）・チェコ（A組3位）との試合は4日午後4時からアキールケビイで行われた。審判＝アルシスチェフスキー、ジェジオルニイ　観衆＝七百

日本 25（11－13, 14－12）25 チェコ
引き分け

得	【日本】		【チェコ】		得
0	福井	GK	パッカ	188cm	0
0	柴田	GK	ヒルナー		0
2	中井	FP	リスカ	180	3
7	蒲生	FP	パビック		2
2	佐藤	FP	サリバー		6
8	花輪	FP	ハベー		2
3	穂積	FP	ピチュク		1
1	津川	FP	ブルーナ		0
0	柳川	FP	ドブロッカ	181	1
0	志賀	FP	ストラカ		3
0	中本	FP	パピエルンク	179	7
2	斉藤	FP	カンダ		0
25	（3）	PT	（2）		25

◇このほかの試合

チェコ 18（7－6, 11－12）18 ハンガリー
引き分け

スペイン 24（12－9, 12－12）21 チェコ

ハンガリー 23（12－11, 11－8）19 スペイン

【順位】⑨ハンガリー2勝1分⑩スペイン2勝1敗⑪チェコ2分1敗⑫日本1分2敗

「ブルガリアには勝てる。だからポーランドか、スウェーデンに勝ってベスト、8に入る。ポーランド戦が案外チャンスだ。だけど控え選手の層が……キャリアが……」。羽田を発つ前夜、竹野監督はこう語っていた。

本田、木野、藤中を第一線から引かせて若返った〝新生日本〟はスペイン、ポルトガル、フィンランドを転戦、本番のコペンハーゲンへ乗り込んだ。そしてよく健闘した。

「日本はポーランドを破るかに思われた。今後は、ヨーロッパゾーンに入ってもまれれば、日本は上位で互角に戦える」――地元関係者にこう言わしめた対ポーランド戦「なぜ№11（蒲生）を交替させてやらないのか？」彼はへばっていた。一時間のゲームは12名のエントリー選手全員で戦うべきだ。そうしたら日本が勝っていた。」とデンマークナショナル選手は口々に語っていた。

（深江）

1月29日、ブルガリア戦勝利のあとで、この原稿を書いている。

今大会日本の最大課題であった「ベストエイト進出」は今回も成らなかった。

明日から9位決定リーグがはじまるが、今回の大会は、これで終ったように思える。

一足早く〝善戦の総評〟をまとめた。（深江幸次郎）

これまで日本チームにとって世界の壁は厚く、遠いものであった。

今や世界の強豪といわれる国はソ連、ルーマニアを頂点とする共産圏諸国、そして西ドイツ北欧諸国（スウェーデン、デンマーク）――これらの国々をあげても十指に余る。

日本がベスト6を、ベスト8を目指すことは、これら十強を倒す地力を持たないと果たせない課題である。

だが、予選リーグ3試合を見るかぎり、厚くて遠い高い壁は薄く近く低くなった。

かつて私は、一九六一年ドルトムント（西ドイツ）で開かれた第4回世界選手権に参加したその時、ルーマニア、チェコに蹴ちらされてふっとんだ経験をもっている。

そしてメインホールでのルーマニア×チェコの決勝戦を観戦して「いつの日か、この感激を味わえることか？。日本の将来のハンドボールが世界の強豪と対等にわたりあえる日が、いつ……」と感傷にふけったのを想い出した。

十七年の歳月が流れた。大きな変遷を目のあたりにした。体力も技術も、いやそれよりもキャリアが大きくハンドボールの本質を変えていた。

残る課題はキャリア不足と選手層

〝格闘競技〟としての性格が大きくのさばって来ている。

輪島、北の湖に、テクニックに優る小兵力士が必死で挑んだとしても十回に一回の勝機をみつけるのがせいぜいだろう。

しかも輪島、北の湖にはすばらしいテクニックが認められるのである。

すなわち、ソ連、両ドイツ、ルーマニア、ポーランド、ユーゴなどは190cm近い平均身長の上に秀れたテクニックが備っているのだ。

体格プラス巧さ……。

体力と技術、そしてキャリア、この三つの要素において、日本はけして、すべてに劣っているとは思わない。

体力と技術ではポーランド、スウェーデンにも負けなかった。

新しきミスター・ジャパン、エースの蒲生はポーランド戦にフル出場、中井、穂積、津川、花輪も出場時間において、他の強豪国の主力選手と対等に戦える力をもっている。

これまでの壁は、10点に近い点差に表れていた。

それが近年、その差を縮め、今大会では三～五点の差に近づいたこの差をさらに少なくするには二つのポイントが考えられる。

①個々の選手（スターティングメンバー）に体力、技術の差はないが、キャリアにおいて大きな開きがある。

ヨーロッパでは、日本の東京―名古屋、名古屋―大阪ていどの距離で国際試合が経験ができる。その〝利点〟を活かしてソ連や西ドイツ、スウェーデンは年間50試合近い国際試合をやるのだ。そこで身につけるかけひきが、すなわちキャリアだ。

②選手層に大きな開きがあるエントリー全員が平均した体力技術、キャリアを身につけているヨーロッパ勢に比べて、日本選手はその〝平均値〟が低いのである。

手のとどくところへ来た壁。だが、これを破るために横たわる二つのポイントは、なみたいていのことでは〝解決〟しない。

「ガモ(蒲生)があと三人いれば……」というのが、外国専門家たちの、日本スタッフへの慰めとも批評ともつかぬ言葉だったが私もそう思う。

そうなれば、ベスト8はおろか、ベスト6も可能だ。甘い観測だろうか。一九六一年、世界選手権に参加して以来十七年の月日が、ともかく日本はここまで成長し、到達した。

あと一息である。本当に、あと一息である。

（筆者は本誌編集委員。関学OB。日本が初参加した第4回世界選手権代表）

ルーマニア3連覇の夢消ゆ

予選リーグ（A〜C組）

◇A組

ユーゴ 24（11―7、13―4）11 カナダ

西ドイツ 16（8―8、8―5）13 チェコ

西ドイツ 20（13―7、7―3）10 カナダ

ユーゴ 17（8―9、9―7）16 チェコ

チェコ 29（14―5、15―5）10 カナダ

西ドイツ 18（9―8、9―5）13 ユーゴ

【順位】①西ドイツ3戦全勝②ユーゴ2勝1敗〜以上準決勝リーグへ進出〜③チェコ1勝2敗④カナダ3敗

◇B組

ハンガリー 33（16―13、17―9）22 フランス

東ドイツ 18（10―9、8―7）16 ルーマニア

＜得点者＞【東】ドライボート4、バール、ベーメ、エンゲル各3、シュミット2、グルナー、ホルデブラント各1【ル】ビルトラン9、ストックル4、グラボフスチイ2、ドラガニタ1

ハンガリー 12（5―4、7―6）10 東ドイツ

ルーマニア 36（18―8、18―9）17 フランス

ルーマニア 22（13―11、9―10）21 ハンガリー

東ドイツ 28（14―9、14―6）15 フランス

【順位】①ルーマニア2勝1敗（得失点差17）②東ドイツ2勝1敗（13）〜以上準決勝リーグへ進出〜③ハンガリー2勝1敗（11）④フランス3敗

◇C組

デンマーク 19（8―6、11―9）15 スペイン

ソ連 22（8―9、14―9）18 アイスランド

デンマーク 21（11―6、10―8）14 アイスランド

ソ連 24（14―7、10―5）12 スペイン

スペイン 25（10―12、15―10）22 アイスランド

ソ連 16（7―8、9―8）16 デンマーク
引き分け

＜得点者＞【ソ】タビツエ、マキシモフ各4、アンピロゴフ3、ズク2、クリモフ、チエルニショフ、キドヤエフ各1【デ】ベルグ7、ニールセン、ムンカゲル各2、ソーレンセン、パジイ、E・B・ペターセン、J・ペターセン、ヤコブスガルト各1

【順位】①ソ連2勝1分（得失点差16）②デンマーク2勝1分（11）〜以上準決勝リーグへ進出〜③スペイン1勝2敗④アイスランド3敗

○……最大の激戦はB組だった。いきなり王者ルーマニアが東ドイツに屈し、その東ドイツがハンガリーに食われたため、最後のルーマニア×ハンガリー戦が大変なヤマ場になった。

ハンガリーの先行からルーマニアは後半なかば必死の反撃を実らせ23分20―17とした時はそのまま押し切るかにみえたが、引き分けでも準決勝リーグ浮上のハンガリーは残り5分から猛然と反撃、21―21、望みを果たしたかにみえた

しかし、ルーマニアは29分59秒ドラウが起死回生の1点を決めた

ハンガリーは、この一投は試合終了後に放たれたと激しく抗議、審判団の「有効」の判定を不満とし、世界選手権史上初の提訴試合になった。24時間後、IHF（国際ハンドボール連盟）は、このアピールを却下、ルーマニアは辛くも8強入りを遂げた。

○……A組は西ドイツの若い力が波にのり、ユーゴ戦はややてこずったものの、まず完勝といってよい試合ぶりで進出。

C組はデンマークが地元の大声援をうけて3―8の劣勢を挽回したばかりか、後半21分初めて先行、残り4分16―14とリード、大波乱かと思わせたが、ソ連は29分老巧マキシモフが同点を決め、地力を示した。

準決勝リーグ

◇1組

西ドイツ 14（7―5、7―9）14 東ドイツ
引き分け

＜得点者＞【西】クルスパイス5、スペングラー、デッカルム、エーレト、ブラント各2、ヴンデルリッヒ1【東】ベーメ4、グルナー3、エンゲル、ドライボート各2、シュミット、クルゲル、ゲルラッハ各1

ユーゴ 17（8―6、9―10）16 ルーマニア

＜得点者＞【ユ】クリホカビッチ7、パビセビッチ6、ジョボビッチ、ミルヤク、ビダコビッチ、デラメトビッチ各1【ル】ビルトラン8、ボアナ3、ドラガニタ、ドラウ各2、ステインガ1

ユーゴ 16（5―7、11―9）16 東ドイツ
引き分け

＜得点者＞【ユ】パビセビッチ5、プロダニク、クリホカビッチ各3、ミルヤク、ラジエノビッチ各2、デラメトビッチ1【東】ベーメ、ビーガルト各5、エンゲル2、ドライボート、バール、クルゲル、ゲルラッハ各1

西ドイツ 17（9―11、8―6）17 ルーマニア
引き分け

＜得点者＞【西】ヴンデルリッヒ4

デッカルム、エーレト各3、メフレ、スペングラー、クルスパイス各2、ブラント1
【ル】ビルトラン5、グラボフスチー3、キシド、ボアナ、ドラガニタ右2、ベデイバン、フホルシエル、ストックル各1

西ドイツ　18――13　ユーゴ
東ドイツ　18――16　ルーマニア
（以上2試合は予選リーグの記録を適用）

【順位】①西ドイツ1勝2分（得失点差5）②東ドイツ1勝2分(2)③ユーゴ1勝1分1敗④ルーマニア1分2敗

○……3試合が引き分けという未曽有の混戦、興奮の好試合が連続した。

そのなかで、いきなりユーゴがルーマニアに止めを刺し、史上初の3連覇を目指したルーマニアの野望を砕いてしまった。ルーマニアは後半14分14―11のリードを生かせぬほど守りが弱くなってしまっている。

東西ドイツの対決は、文字どおりのシーソーゲーム。東が残り10分から僅かに先行、22分14―12と優勢に立ったが、西は26分アーレット、27分ブラントで追いついた。

ユーゴ×東ドイツはユーゴが先手をとりつづけながら、東ドイツは残り3分で得た二つのPTに救われた。ユーゴにとっては痛恨の反則だった。しかし、東ドイツも再三の好機を逸しており、勝ちさえすれば決勝進出だったのだから悔やみは同じかもしれない。

西ドイツ×ルーマニアは、ここへ来て、はじめてルーマニアが王者の意地をみせた。西ドイツは後半21分15―12としたところで勝利を疑わなかったろうが、ルーマニアは22分から3分間に一気に追いついた。西ドイツは28分スペイングラーで17―16、今度こそは、だったが、29分50秒PTをとられ、ルーマニアはビルトランがみごとにこれをモノにして引き分けた。

デンマーク、ポーランド破る

◇2組

ソ連　24（14―13、10―5）18　スウェーデン
〈得点者〉【ソ】クラフコフ5、イリン、グシ各4、マキシモフ、ズク各3、クリモフチェルニショフ各2、クシニリュク1
【ス】アウグストンソン4、Bj・アンデルソン、エリクソン各3、J・アンデルソン、ハンソン、ハンソン、ラスミューゼン各2、フリック、リベンダール各1

デンマーク　25（11―11、14―12）23　ポーランド
〈得点者〉【デ】ベルグ8、ムンカゲル5、ニールセン、パジ各4、ソーレンセン2、E・B・ペターセン、J・ペターセン各1
【ポ】クレムペル、カルジンスキー各5、ブルゾゾウスキー、プルジイブス、ガルピエル各3、グミレク2、ソコロフスキー、ビシンガー各1、

デンマーク　18（8―5、10―9）14　スウェーデン
〈得点者〉【デ】ベルグ4、ムンカゲル3、ニールセン、ソーレンセン、クリステンセン、ジエンセン、ヤコブスガルト各2、E・B・ペターセン1
【ス】ハカンソン4、ジョンソン、リベンダール各3、J・アンデルソン2、エリクソン、ハンソン各1

ソ連　18（11―7、7―9）16　ポーランド
〈得点者〉【ソ】ガシ8、クラフコフ4、クシニリユク、イリン各2、アンピロゴフ、ズク各1
【ポ】クレムペル、カルジンスキー各5、ガルピエル3、ブルゾゾウスキー、ソコロフスキー、グミレク各1

ソ連　16（分）16　デンマーク
ポーランド　22――17　スウェーデン
（以上2試合は予選リーグの記録を適用）

【順位】①ソ連2勝1分（得失点差8）②デンマーク2勝1分(6)③ポーランド1勝2敗④スウェーデン3敗

○……予選C組の引き分けをどう活かすか。ソ連、デンマークは互いに星勘定をしながら手固い試合運びをみせ、一歩先を行くポーランド戦が大きなカギになった。

まず、当たったデンマークは後半15分20―16としながら、そのあとポーランドの総攻撃にたじろぎ1点リードのピンチをつづけながら、ともかくプラス2を手にした。

この日、ソ連はスウェーデンからプラス4。

すべてのかかった第2日。ヘルニングのデンマークスウェーデンが前半デンマーク1点のリードで終ったのに対し、アハースで戦かうソ連はポーランドに7―9と苦戦。デンマークベンチの気負いは後半15分14―10とするのだが、同じ頃、ソ連はクラフソフの巧技で14―13と逆転、そのあと3ゴールをたたみかけた。

20時40分、同時に試合は終わりともに4点差の勝利、ソ連が前日のプラス4にモノをいわすことになった。

惜しかったのはポーランド、結局は両国の気力に及ばなかったが2試合とも勝機は充分にあり、勝ちあがれば、史上に残る〝波乱の目〟として特筆されただろう。

今月のカレンダーはお休みさせて頂きます。



西独、高らかに王国復活うたう

順位決定戦

7・8位決定戦は、モスクワオリンピック出場権をかけてルーマニアとスウェーデンの間で2月5日午後2時からコペンハーゲンのブロンデイホールで行われた。審判＝ライチエル、テテンス）西ドイツ）、観衆＝六千八百

ルーマニア 25（12―10、13―7）17 スウェーデン

＜得点者＞【ル】グラホフスチー7、ドラガニータ、ビルトラン各5、ベデイバン、フホルシエル各3、ステインガ、ストックル各1【ス】ラスミューゼン4、BO・アンデルソン3、エリクソン、ハンソンジョンソン、リベンダール各2、グスタフソン、ハカンソンソン各1

○……7位決定戦とはいえモスクワ行きがかかる大切な一戦。目の色のかわっていたのはルーマニア3連覇を阻まれたばかりか、8位転落では……という気力が後半8分18―10の大差につながった。

前半25分までピタリとついていたスウェーデンも、このあと、連戦の疲れがのぞき、後半はルーマニアの一方的なゲームとなってしまった。

ユーゴ、ポーランドを逆転

5・6位決定戦は、ユーゴとポーランドの顔合せで4日午後3時からブロンデイホールで行われた審判＝ニルソン、オルソン（スウェーデン）、観衆＝七千

ユーゴ 21（13―9、8―10）19 ポーランド

＜得点者＞【ユ】ラジエノビッチ6、ラパビセビッチ5、ヨボビッチ、ズドラッコ各4、マカリッチ、デラメリビッチ各1【ポ】クレムペル8、ビシンガー、プルジイビス各4、カルジンスキー2、ブルゾゾウスキー1

○……ユーゴはミルヤク、ホルバト、GKニムス、ゾルコらがあまり出ず、早くもモスクワ意識の若手編成。

このため、要所で得たPTを活かしたポーランドに後半5分まで先行された。

しかし、ユーゴは後半15分14―14のあとパピセビッチ（PT）と新進デラメトビッチのゴールでリードを奪い、いったんタイとされたものの、20分すぎの好機を活かして粘るポーランドを振り切った。

東ドイツ、3位を飾る

3・4位決定戦は東ドイツと地元デンマークの対戦、4日午後4時30分からブロンデイホールで行われた。審判＝ビトルス、クエスル（ソ連）、観衆＝七千

東ドイツ 19（10―8、9―7）15 デンマーク

得	【東ドイツ】		【デンマーク】	得
0	ボイト・184cm	GK	ヨルゲンセン・186cm	0
0	W・シュミット・186	GK	ヘップソン・189	0
7	ドライボート・196	FP	ベルグ・186	5
0	ヒルデブラント・190	FP	ニールセン・192	0
0	バール・190	FP	ソーレンセン・184	2
7	ブーメ・187	FP	パジイ・193	2
0	クルゲル・178	FP	クルステンセン・192	2
1	ゲルラッハ・178	FP	ジェンセン・189	1
3	グルナー・187	FP	ムンガゲル・182	1
0	シュッテ・182	FP	J・ペターセン・180	0
0	ビーゲルト・184	FP	ヤコブスガルト・180	1
1	ホフツ・192	FP	ボック・190	1
19	（4）	PT	（2）	15

○……東ドイツを追うデンマークが後半8分10―11とした時の歓声は館内が割れんばかりのもの。しかし、東ドイツ選手はほとんど顔色をかえず、そのあとの好機を活かし18分15―11。この冷静さはたくましさに裏付けられたものでなくてなんであろう。デンマークは26分15―17と再び詰めたが、東ドイツは29分ドライボート、29分50秒主将ベーメでダメを押した。

ソ連の〝二冠〟成らず

ワールドタイトルをかけたグランドファイナル——決勝戦は西ドイツ×ソ連の初対決により5日午後3時30分からブロンデイホールで行われた。審判＝スベンソン、クリステンセン（デンマーク）観衆＝七千百

西ドイツ 20（9―8、11―11）19 ソ連

得	【西ドイツ】		【ソ連】	得
0	ホフマン・191cm	GK	イチエンコ・186cm	0
0	ニーメイヤー・190	GK	トミン・177	0
0	メフレ・184	FP	マキシモフ・185	2
3	バルッケ・187	FP	クシュニリュク・200	0
0	フライスラー・195	FP	イリン・189	4
0	ローゼンダール・180	FP	クラフコフ・172	0
4	スペングラー・181	FP	ガシ・	5
1	ヴンデルリッヒ・204	FP	アンピロゴフ・205	0
6	デッカルム・193	FP	チエルニショフ・202	4
3	エーレット・180	FP	ズク・181	3
1	ブラント・193	FP	キドヤエフ・174	1
2	クルースパイス・195	FP	レザノフ・197	0
20	（1）	PT	（8）	19

○……歴代ベストスリー……○

▽第1回（一九三八）①ドイツ②

▽第2回（一九五四）①スウェーデン②西ドイツ③チェコ

▽第3回（一九五八）①スウェーデン②チェコ③ドイツ（連合）

▽第4回（一九六一）①ルーマニア②チェコ③スウェーデン

▽第5回（一九六四）①ルーマニア②スウェーデン③チェコ

▽第6回（一九六七）①チェコ②デンマーク③ルーマニア

▽第7回（一九七〇）①ルーマニア②東ドイツ③ユーゴ

▽第8回（一九七四）①ルーマニア②東ドイツ③ユーゴ

「ハンドボール」
53年3月号（第161号）目次

スペインカップで4位
ポルトガル、フインランド転戦

世界選手権直前のビッグトーナメントとして注目された第3回スペイン国際大会（スペイン・カップ）は、1月7日から11日までラ・コルーニャに日本をはじめ、前回優勝のオリンピックチャンピオン・ソ連、世界タイトルをもつルーマニア、それにフランス、地元スペインという顔ぶれによって総当り戦で行われた。

〝世界〟を狙う日本にとって、かっこうの小手調べとなり、ベンチは、手駒を多彩に使いわけながら臨み、4位ながら、一応の成果をあげた。優勝はソ連。

日本男子の国際トーナメント出場は、カナダ・カップ（一九七五モントリオール）以来。

日本はこのあとスペイン、ポルトガル、フインランドを転戦。スペイン国際を含めて14戦10勝4敗の成績だった。

好スタート及ばず

日本の第1戦（遠征第1戦）・ソ連との試合は1月7日午後6時45分から行われた。審判＝コットベネ（スペイン）、観衆＝

ソ連 30（18—9、12—7）16 日本

【日本】	得		得	【ソ連】
福井	0	GK	0	イチエンコ
柴田	0	GK	0	トミン
中井	0	FP	3	マキシモフ
佐藤	4	FP	5	イリン
蒲生	7	FP	5	クラフソフ
花輪	2	FP	0	クリモフ
柳川	1	FP	5	ガシ
穂積	2	FP	5	アンピロゴフ
津川	0	FP	1	チエルニシヨフ
斉藤	0	FP	3	キドヤエフ
中本	0	FP	3	レザノフ
志賀	0	FP	0	ベロフ
（3）	16	PT	30	（3）

○……序盤の日本はすばらしいデキ。だが15分をすぎるあたりからソ連の地力に押され気味となり、5点差がついた。

こうなると、ソ連に余裕を与えてしまい日本が1点をとっても、じっくり好機を待って2点、3点とたたみかける。

日本は前半5—5のあと、二本のスカイプレーを僅かにタイミングが悪く落としたのが惜しまれる。

ここを決めていれば、さらに試合の展開を変ったものにしていただろう。なお、日本はモントリオールオリンピックのカナダ戦から昨秋の台湾戦まで公式国際試合に連勝をつづけていたがストップされた。

（幸田末之・団長）

残り1分、決勝点失う

日本の第2戦・スペインとの試合は8日午後8時から行われた。審判＝イッシャー、リカルト（スイス）、観衆＝○○

スペイン 25（13—15、12—9）24 日本

【日本】	得		得	【スペイン】
柴田	0	GK	0	ペラモン
福井	0	GK	0	ロペス
蒲生	9	FP	0	フオンテ
佐藤	3	FP	0	シンカ
津川	2	FP	6	スアレス
穂積	0	FP	1	M・ロペス
中井	1	FP	1	P・ロペス
花輪	5	FP	3	ベホバイド
柳川	0	FP	6	ド・アンドレ
斉藤	4	FP	2	フェルナンデス
中本	0	FP	3	B・ロプス
池之上	0	FP	3	バジエリカ
（2）	24	PT	25	（4）

○……日本の粘りが印象的。本番を期待させるに充分だった。

後半17分16—20とされ、地の利をもつスペインにこの点差は痛かったが、このあと速攻のリズムが戻り、18分蒲生、18分20秒斉藤、20分津川で19—20、一進一退のあと24分蒲生で21—21とした。

しかし、ここで先行できなかったばかりに、再び後手にまわり28分24—24のあと29分40秒フエルナンデスのシュートを刺されて惜敗した。

スペインは、小柄ながらがっしりした体躯の選手が多く、強引なカットインで、日本ディフェンスを割ってきた。

（幸田）

フランスから辛くも1勝

日本の第3戦・フランスとの試合は10日午後7時45分から行われた。審判＝レイチェル、テテンス（西ドイツ）、観衆＝○○

日本 30（13—13、17—16）29 フランス

【日本】	得		得	【フランス】
柴田	0	GK	0	バリノ
須波	0	GK	0	シャネン
佐藤	8	FP	2	リニヤック
花輪	1	FP	1	アレイモ
中井	4	FP	9	グラブン
蒲生	11	FP	1	グランジャン
柳川	3	FP	3	マルティネ
津川	2	FP	0	ジロー
斉藤	0	FP	9	ジェオフロイ
池之上	1	FP	2	レイ
穂積	0	FP	1	ルッサー
中本	0	FP	1	ドネ
（6）	30	PT	29	（2）

○……力ではるかに日本が優っていたのだが、さすがにBクラスとはいえヨーロッパでもまれているだけにフランスは、相手の僅かな乱れを見逃さない。

日本は多彩な攻撃で前半20分13—7と有利に運んだのだが、そのあと動きがやや鈍り、メンバーチェンジのスキをつかれたりして29分17—16とされた。

こうなるとフランスは一本調子が利点となってかさにかかり、日本は受け身。後半5分初めて先行され10分には20—23と引きはなされた。

この劣勢を救ったのはGK柴田フランスの追加点を実に14分間にわたって防ぎ、この間に日本は蒲生、柳川らでポイント、20分27—23とした。

これで勝利は固いと思えたのだが、フランスは捨て身のロングを射ちつづけ、28分29—28まで追いすがられた。

しかし、日本は28分蒲生が快投30—28、どうやら1勝を手にすることができた。

（幸田）

蒲生、ビルトランと一騎討ち

日本の第4戦（最終戦）・ルーマニアとの試合は11日午後8時45分から行われた。審判＝レイチェル、テテンス（西ドイツ）、観衆＝○○

ルーマニア 41（22—10、19—16）26 日本

【日本】	得		得	【ルーマニア】
福井	1	GK	0	ペヌ
柴田	0	GK	0	マルチダン
中井	3	FP	5	シロニウク
花輪	1	FP	0	フランガー
佐藤	7	FP	3	ドラル
蒲生	11	FP	1	ドラガニア
穂積	0	FP	16	ビルトラン
津川	1	FP	2	フォルカー
斉藤	0	FP	5	ツドセ
柳川	2	FP	1	ストックル
池之上	0	FP	4	ニコレイシブ
中本	0	FP	4	スティンガー
（1）	26	PT	41	（3）

○……本来ならソ連×ルーマニアの黄金カードが閉会式まえの最終戦に組まれるところだが、遠来の日本に対する礼で、ルーマニアとの一戦が、それに代ってスケジュールされていた。

この期待に応えるべく日本は張り切ってのスタートで、開始6分1—4とされながら、蒲生、中井でよく持ちなおし、17分8—9と場内をわかせ、そのあと一歩も引

かぬ健闘で20分ついに同点（11—11）とした。

互角の戦況は26分15—15までつづいたが、ルーマニアの力と技に27分から連続4ゴールされてしまった。

後半、気をとりなおした日本は3分2点差とし、反撃の気勢をあげたのだが、ルーマニアは一気のスパートをここでみせ9分27—20と大きな傷をうけた。

こうなると、耐えに耐えていた日本の気力の糸も切れ、ルーマニア攻撃陣になだれこまれてしまった。

終盤の興味は、蒲生とビルトランの得点王争い。

前日まで蒲生27、ビルトラン24だったが、前半を終って蒲生34、ビルトラン33。後半10分35—35と並んで予断を許さなかったが、残り10分を切ってルーマニアはフリースローをすべてビルトランに集め、惜しくも蒲生はタイトルを取りそこなった。

しかし、日本ベンチにとって、いちだんとたくましくなった蒲生の攻撃力は大きな収穫であった。（幸田）

◇このほかの試合

スペイン 19（11—11 8—6）17 フランス

ルーマニア 22（8—8 14—9）17 フランス

ソ連 23（9—10 14—5）15 フランス

ルーマニア 21（10—6 11—10）16 スペイン

ソ連 24（13—11 11—8）19 ルーマニア

＜得点者＞【ソ】マキシモフ、ガシ各6、シエルミスネン4、キドヤエフ3、クラフソフ2、アレックス、イリン、アンピロゴフ各1

【ル】ビルトラン7、ドラガニタ、ステインガ各3、フォルカー2、ドラウ、ツドセ、ストックル、ミロニウク各1

ソ連 18（6—8 12—7）15 スペイン

【順位】①ソ連4戦全勝＝2連勝②ルーマニア3勝1敗③スペイン2勝2敗④日本1勝3敗⑤フランス4敗

○……過去の成績……○

▽第1回（一九七五）①ポーランド②スペイン③西ドイツ④スイス⑤オランダ

▽第2回（一九七六）①ソ連②ルーマニア③ポーランド④スペイン⑤スイス

ベストセブンに蒲生

大会終了後、組織委はこの大会のベストセブンを発表。日本から蒲生（FP、大同特殊鋼）が選ばれた。

国際的なビッグイベントの公式ベストセブンに、日本選手がリストアップされたのは初めて。

なお、ベストセブンは毎試合の成績をスポーツライターが投票するポイント法式で、蒲生は最高の69ポイントを獲得したもの。

（ベストセブン）▽GK ペヌ（ルーマニア）▽FP 蒲生（日本69P）、ビルトラン（ルーマニア68P）、ガシ（ソ連、63P）。ド・アンドレ（スペイン、50P）、ジエオフロイ（フランス、42P）、マキシモフ（ソ連、41P）。

スペイン親善試合

スペインカップを打ちあげた日本は、引きつづきスペイン国内を転戦した。

▽遠征第5戦（1月13日・ハエン記念ホール）

日本 31（18—9 13—8）17 ADA・ハエン

得	【日本】		【ハエン】	得
0	福井	GK	フラド	0
0	柴田	GK	マルコス	0
4	津川	FP	モリナ	1
4	佐藤	FP	ルイス	0
2	花輪	FP	セケレゾオ	0
7	蒲生	FP	ラムスレス	1
4	中井	FP	カンポス	0
3	斉藤	FP	フランシス	1
3	池之上	FP	デ・ブラス	7
1	穂積	FP	エスポジイト	1
1	中本	FP	サンシエ	3
2	志賀	FP	ラトレ	3
31				17

アリカンテに苦杯

▽同第6戦（1月14日・マルコルアベレン体育館）

カルピサ アリカンテ 23（12—9 11—12）21 日本

得	【日本】		【アリカン】	得
0	柴田	GK	テルシ	0
0	福井	GK	オルトス	0
4	津川	FP	モラーニ	
0	穂積	FP	カバナス	
4	中井	FP	マイロス	
8	蒲生	FP	ラバカ	
3	花輪	FP	ビダル	
0	柳川	FP	ソリアーモ	
2	佐藤	FP	タウリ	
0	斉藤	FP	カスターロ	
0	中本	FP	ゴメス	
0	志賀	FP		
21				23

おなじみグラノリエルス敗る

▽同第7戦（1月15日・マルコルアベレン体育館）

日本 31（16—14 15—12）26 C・Bグラノリエルス

得	【日本】		【グラノリエルス】	得
1	福井	GK	シド	0
0	柴田	GK	アペラネーダ	0
4	中井	FP	ロペス	2
1	花輪	FP	デ・カステール	13
7	蒲生	FP	ピコン	0
9	佐藤	FP	アルハロ	1
2	斉藤	FP	プラト	0
0	穂積	FP	エスクデロ	2
3	津川	FP	サラバリエタ	0
2	柳川	FP	ガレル	0
2	志賀	FP	ホルダ	0
0	中本	FP	セラルド	8
31				26

ポルトガル親善試合

スペインからポルトガルに転戦日本チームのポルトガル入りは初めて。

▽遠征第8戦（1月16日・）

日本 31（9—15 22—5）20 ポルトガル・ジュニアナショナル

得	【日本】		【ジュニア・N】	得
0	柴田	GK	アモリン	0
0	福井	GK	ミグエル	0
5	蒲生	FP	ホセ・カルロス	1
3	佐藤	FP	マリオ	1
4	斉藤	FP	ホネル	5
0	中井	FP	レメルヘ	1
4	津川	FP	コレリア・ピント	1
2	花輪	FP	パイス	1
0	穂積	FP	アレイアス	6
6	柳川	FP	マヌエル	3
5	池之上	FP	コメディアス	0
2	志賀	FP	リカルド	1
31				20

▽日本このほかの出場者・GK須波、FP中本（いずれも得0）

公式国際試合100に達す

▽同第9戦（1月17日）

日本 33（17—6 16—15）21 ポルトガル

得	【日本】		【ポルトガル】	得
0	柴田	GK	カルロス	0
0	須波	GK	ニアギンタ	0
10	中井	FP	サラドーラ	0
6	佐藤	FP	U・ルイス	0
0	花輪	FP	バスコ	5
0	蒲生	FP	スーザ	1
6	津川	FP	エスパデインカ	1
4	穂積	FP	コウゲイロ	1
1	斉藤	FP	ヤンエイノ	0
1	中本	FP	ピンホ	0
2	池之上	FP	ブリト	3
3	柳川	FP	ゴンザレス	10
33				21

○……一九六一年三月、第4回世界選手権予選リーグでチェコスロバキアとカールスルーエ（西ドイツ）で対戦したのを第1戦とする日本男子の7人制公式国際試合はこの日が記念すべき100試合目。

相手が世界Cグループ1位とは

いえ、みごとな攻守で勝利を飾った。

▽同第10戦（1月18日午後9時25分）

日本 23（11-9, 12-7）16 ポルトガル・ジュニアナショナル

得	【日本】		【ジュニア・N】	得
0	福井	GK	アモリン	0
0	須波	GK	サライバ	0
3	中井	FP	アルミンド	1
1	蒲生	FP	コペリア	0
4	津川	FP	マッサ	2
1	志賀	FP	リカルド	1
1	斉藤	FP	ホネル	1
5	柳川	FP	グエルレイロ	5
0	花輪	FP	マヌエル	3
5	池之上	FP	セルジオ	1
0	佐藤	FP	バンハ	2
3	中本	FP	アレイアス	0
23				16

▽日本このほかの出場者・GK柴田・FP穂積（いずれも得0）

ポルトガルに2連勝

▽同第11戦（1月18日午後10時25分）

日本 25（14-5, 11-9）14 ポルトガル

得	【日本】		【ポルトガル】	得
0	福井	GK	カルロス	0
0	柴田	GK	アントニオ	0
2	津川	FP	マリンホ	0
8	穂積	FP	サラドーラ	0
8	蒲生	FP	バスコ	4
3	花輪	FP	スーザ	0
0	柳川	FP	エスパディンハ	3
4	中井	FP	コウゲイロ	0
0	池之上	FP	アダイ	0
0	斉藤	FP	J・ルイス	1
0	佐藤	FP	ブリト	0
0	志賀	FP	ゴンザレス	6
25				14

フインランド親善

トライアル最後の仕上げとしてフインランドナショナルなどと3試合を行った。

▽遠征第12戦（1月20日・カルヤハハ＝20分ハーフ）

日本 25（14-5, 11-7）12 BK・46 HC

得	【日本】		【BK 46】（個人得点不明）
0	福井	GK	F・ハンス
0	柴田	GK	トーハ
2	津川	FP	ハンヌウ
0	志賀	FP	ゾースタ
1	池之上	FP	ターン
0	中本	FP	リッソウ
3	斉藤	FP	ロジエル
2	穂積	FP	T・ハンス
4	花輪	FP	ロセール
5	中井	FP	トーハン
5	蒲生	FP	ディーター
3	佐藤	FP	スティンガ
25			12

11年ぶりのかたき討ち

▽同第13戦（1月21日）

日本 23（9-10, 14-7）17 フインランド

得	【日本】		【フインランド】	得
0	福井	GK	インネンタール	0
0	柴田	GK	ラサーネン	0
6	中井	FP	レイトライネン	2
3	佐藤	FP	Lu・ストリョームステン	1
4	花輪	FP	リヨネンブルグ	5
4	蒲生	FP	ケイブンポルス	2
4	津川	FP	ウエハラチ	0
2	斉藤	FP	コルヨーネン	2
0	柳川	FP	ハインドレン	2
0	池之上	FP	ソイトン	1
0	穂積	FP	プルカーネン	1
0	志賀	FP	ナイベリー	1
23				17

○……フインランド・ナショナル（Cグループ4位）との対戦は、42年1月8日ヘルシンキで対戦して以来のこと。

この時は29-34で敗れており、11年ぶりで、借りを返したことになる。

第2戦は後半にペース

▽同第14戦（1月22日）

日本 26（12-9, 14-14）23 フインランド

得	【日本】		【フインランド】	得
0	栗田	GK	インネンタール	0
0	須波	GK	ビンベリー	0
7	佐藤	FP	リヨネンブルグ	6
1	穂積	FP	アストリョーム	2
8	斉藤	FP	レイトライネン	6
8	中井	FP	Ku・ストリョームステン	2
1	蒲生	FP	イプンポルス	1
0	津川	FP	ウスハラチ	1
0	池之上	FP	コルヨーネン	1
1	花輪	FP	プルカーネン	2
0	志賀	FP	ハインドレン	0
0	中本	FP	Ka・ストリョームステン	2
26				23

日本チームの戦った六試合、いずれも相手は強豪であった。〝力のハンドボール〟と〝技のハンドボール〟で国によって、対戦する相手によって得手、不得手があるものの、記録から見れば、優勝した西ドイツも、ソ連もデンマークも、日本が善戦したポーランドとほとんど差がない。ここところが

こんな試合だから、日本はあそことは互角だ……なんてことは一概にはいえない。しかし、七組のルーマニアは二年後のモスクワ五輪では優勝を争うチームであると確信する。力は拮抗している。日本は今や、世界ではお話にならない〝お荷物〟ではなくなった。

〝壁〟の内容には①簡単に解決出来ない問題と②解決出来る問題がある。前者は、環境である。年間50試合の国際試合を消化する彼等、対戦相手が決まれば、一年前から相手チームを追かけてチーム力を分析する経済力と組織力。環境の違いがいろんな面で障害となっている。この問題点は、またの機会に論ずるとして、後者は、協会の取り組み方と選手たちの自確によって果たせ得る問題だ。

協会がヤングナショナルを打ち出して動いている。大ヒットだ。モスクワ五輪はすでに始まっている。〝若いこと〟だけでは世界に通じない。今、日本でベテランといわれる人達に、〝オレはまだ若手〟という意欲と自確を持ってもらいたい。今大会で日本チームが世界に示した〝力〟は〝日本も強敵〟という評価であるはずだ。胸を借りる立場でなくなった。ベスト、8へ手がかかった印象を伝えて、一層の協力体制を協会に望みたい。

（深江）

プレス・ルーム <7>

小山　敏昭
――共同通信社運動部―

■悔やまれる予選リーグ

一月二十六日からデンマークで開かれていた第9回男子世界選手権は西ドイツが強豪ソ連を20―19で破って見事二度目のタイトルを獲得した。

日本は予選リーグD組でブルガリアに勝って、9―12位決定リーグに進んだが、結局1分け2敗で12位に甘んじてしまった。

『目標はベスト8』だっただけにやや期待外れの観はあるが、若手に入れ替わったばかりの〃新生全日本〃であることを考えれば、まずはよく健闘したとたたえるべきだろう。

だがそれにしてもなんとも悔やまれるのが、予選リーグの3試合が3試合とも前半はタイスコアだったことだ。ポーランド戦は前半13―13で後半に5点差をつけられて敗れたほか、スウェーデン戦でも10―10から後半に4点のアヘッドを許してしまった。また勝ったブルガリア戦にしても前半11―11という試合内容だった。よくもまあこう同点が続いたものだが、それだけ各チームの力が均衡していたといえるのだろう。

そう考えると日本としては後半にあとひと踏ん張りさえしていれば念願の『ベスト8入り』はかなったのではないかと。

もっとも『あとひと踏ん張り』が難しいのであって、それが出来れば、当然モスクワ・オリンピックの出場権も獲得していたに違いない。(上位7カ国が出場権獲得)

日本の12位という成績の原因についてはこれからいろいろと論議されようが、誰の目からもうひとりあげられるのが、数字が示すように後半のスタミナ不足ということだ。

大型化が最大の課題

体格が大きくなれば、スピードスタミナが不足してくる。これは日本のスポーツ界全体が大型化を図る中でかかえる最大の課題だがハンドボール界にとってはそれがまさに明確に出されたわけであるそれだけに今後の強化の方針も立てやすいのだが、この〃教訓〃を生かすも殺すも、これからの協会関係者にかかっている。もっとも協会関係者だけでなく、選手、コーチ、そしてわれわれ報道関係者にもあることは十分承知している……。

おわび

前号プレスルーム文中冒頭にて1行目と2行目に渡り「ブラザー」となっておりましたが、「ビクター」の誤りです。関係各位の皆様方へ心よりお詫びし、この場をお借りして、訂正させて頂きます

編集委員長

全日本選手50回出場記念表彰

公式国際試合出場 50　回　記　念 蒲生　晴明選手 第1戦　1973．9．1 第50戦　1978．1．22 日本ハンドボール協会	公式国際試合出場 50　回　記　念 佐藤　要二選手 第1戦　1973．9．1 第50戦　1978．1．21 日本ハンドボール協会	公式国際試合出場 50　回　記　念 花輪　博選手 第1戦　1971．9．5 第50戦　1978．1．28 日本ハンドボール協会

フリースロー 〈編集委員会論壇〉

スケジュールの整頓とユニークな活動を

40年、人間で言えば働らき盛りであり様々な労苦を一身に背負いながら自からの生涯の成功に全力をつくし、子孫の繁栄を願う年令である。ハンドボールも今後陽の当たる場所に出られるか子孫末代まで日陰に忍従を強いられるか斯界のリーダーたちの責任は重い。幸か不幸か百花斉放、多種多様のスポーツが日本ではひしめき合って競争をしている。ハンドボールはサッカー、バスケット、ラグビー、ホッケーなどの類似スポーツであることも普及のさまたげになっているのだろう。しかし関係者の血のにじむような努力でともかく日本でも全国に普及し、国際的にはオリンピック種目として定着しつつあるほどにもなってきた。逆説的だが日本でのスポーツ種目がもっと少なければハンドボールは人気スポーツの仲間入りを果たしていたかも知れない。子供たちが「野球をやろうよ」「みんなでサッカーやろうよ」とは言っても「ハンドボールに公園へ行こうよ」とはまだいってくれない現実はさみしい。こ・わ・く・な・い、痛・く・な・い・ハンドボールを小学校段階で普及すべきこと、少なくとも体育教科の中に組み入れるのは不可能なのだろうか。種子まきをせねば自然発生的に小学生たちがハンドボールをやり出すのを待てるだろうか。まだ微々たるものだが中学段階まではハンドボールの浸透に成功した。早く小学生がハンドボールを日常の遊びの中で楽しむ姿が見たいものである。さて、どんなスポーツでもトップが強く国際的にも一流であればマスコミがさわぎ子供も大人も自然に関心をもつようになる。ハンドボールのトップチームは責任重大である。普及を前進させるアイディアはたくさんあるが、ドカッと人気を上昇させうるものは残念ながらほとんどないから無理のごり押しをしてもまずは世界の桧舞台での日本チームの銅メダル獲得を願うや切である。その時期が到来すれば日本でのワールドカップ開催などで大きなブームを呼べるであろう。さて現実にはセカンドベストの普及策として関係者の輪を大きくして行く以外にない。私はスケジュールの整頓秩序化を一つ指摘したい。現在観客動員という点から見れば学生リーグ、日本リーグ、全日本総合などビッグチームが多い割には客足が延びない。これは各大会のスケジュールが交錯重複しているからである。特に高校、中学などの年間学校行事予定などを配慮しつつゲームスケジュールをたてるべきではなかろうか。高体連の予選シーズンと学生リーグが重なったり、全日本総合と学年末試験が重なったりしてお互いに見に行けないのである。時宜かなった時なら学生リーグ優勝のかかった最終日など中、高校生から関係者とその友達らでホールを満員にできる筈だ。この事はかつて目玉だった外国一流チームの招待試合などにもいえる。国際試合はかつてはものめずらしさも手伝って相当の人気があったものだが、毎年外国チームの訪日が可能になるやむしろ盛り上がりがなくなった。マンネリ化したのだと思う。多少金はかさむがお祭りが必要だ。子供好きのするブラスバンドやバトントワラー、鼓笛隊、民族舞踊、民謡社中などにぎやかにつぎ込み興奮し陽気にやるのもよいではないか。

そして十分に準備期間を置き企画を練り回数を2年に1度に減らしてもよいから協会役員連をやたらに多忙に追いやらず大きな楽しい国際試合を現出したい。もちろんTVにも放映を願って、イースターの休暇（3～4月）に数カ国訪日させて国際ハンドボール週間というような催しはいかがなものだろう。その際には少年や女子の外国チームもぜひ参加してもらってユニークな線を出したいものである。

（久田　暁）

一六〇号 投術コーナーの訂正

26P	2欄	7行	練聞	練習に訂正
〃	〃	28行	逆側ポストのか	逆側ポストのCかに
〃	〃	29行	逆サイドのに	逆サイドのDに
27P	2欄	14行	最も会う	最も合うに

第18回全日本実業団選手権

（昭和年度トーナメント・男子の部）於 笠間市民体育館・笠間高校体育館――

人口三万五千の都、笠間市で36チームの代表が参加し二月十日〜十三日の四日間開催され、市長、市会議員、教育委員会、協会の皆様の手厚い御協力により、地方色豊かな大会となり、大会となりました。

本大会は、実業団トーナメントチームにとっては年に一度の最大の全国大会で、地方の予選を勝ち抜いてきた精栄チームの集いでありますがなかなかいろんな条件をかかえているチームからなっています。休暇をとって参加しているチーム、個人負担で参加しているチーム、何んとか本大会のため残業をきりつめて来ている選手などと、各々仕事をかかえた貴重な自分の生活に欠かせないスポーツとして取組んでおり、各前の背面に生活がにおって来る感じがし今年もよく節制して頑張っているなあと、ほのぼのとしたぬくもりが感じられる大会でもあります。

東京重機に初栄冠

▽一回戦

住友銀行（大阪）18（9–0、9–8）8 常陽銀行（茨城）

川崎重工（兵庫）37（15–3、22–4）7 自衛隊霞ケ浦（茨城）

自衛隊鹿屋（鹿児島）33（16–3、17–2）5 鹿島石油（茨城）

日進商会（神奈川）15（5–8、10–5）13 出光徳山（山口）

▽二回戦

トヨタ車体（愛知）24（13–8、11–10）18 住友銀行（大阪）

東京重機（東京）23（9–6、14–5）11 三井石油化学岩国（山口）

丸善石油松山（愛媛）28（10–8、18–6）14 出光千葉（千葉）

自衛隊下総（千葉）30（14–4、16–8）12 IHI呉（広島）

丸善石油下津（和歌山）23（8–4、15–5）9 日立製作所（茨城）

武田薬品光（山口）21（8–12、13–7）19 日本原研（茨城）

日鉄建材（大阪）18（12–8、6–6）14 北陸電力福井（福井）

日本発条（神奈川）19（9–6、10–7）13 川崎重工（兵庫）

セントラル自動車（神奈川）12（6–3、6–7）10 自衛隊鹿屋（鹿児島）

大山商会（大阪）23（4–11、9–12）13 日本碍子（愛知）

自衛隊勝田（茨城）27（11–5、16–5）10 日本鋼管福山（福山）

新日鉄名古屋（名古屋）29（12–1、17–3）4 東京電力千葉（千葉）

大同特殊鋼高蔵（愛知）28（13–2、15–6）8 丸善石油千葉（千葉）

大阪ガス（大阪）24（14–9、10–8）17 自衛隊古河（茨城）

金沢市役所（石川）27（15–6、12–9）15 日本石油下松（山口）

神戸製鋼所（兵庫）24（11–4、13–9）13 日進商会（神奈川）

▽三回戦

東京重機 16（7–6、9–3）9 トヨタ車体

丸善石油松山 21（8–5、13–7）12 自衛隊下総

丸善石油下津 26（13–4、13–10）14 武田薬品光

日鉄建材 19（7–7、12–5）12 日本発条

大山商会 13（3–7、10–3）10 セントラル自動車

自衛隊勝田 20（14–7、6–6）13 新日鉄名古屋

大同特殊鋼高蔵 17（10–7、7–8）15 大阪ガス

神戸製鋼所 17（10–9、7–4）13 金沢市役所

▽四回戦

東京重機 21（11–6、10–4）10 丸善石油松山

丸善石油下津 24（12–9、8–11、延長 3–1、1–1）22 日鉄建材

自衛隊勝田 13（5–4、8–7）11 大山商会

大同特殊鋼高蔵 20（11–5、9–7）12 神戸製鋼所

▽準決勝

東京重機 21（10–9、11–7）16 丸善石油下津

大同特殊鋼高蔵 21（14–3、7–4）7 自衛隊勝田

▼決勝

東京重機 14（7–4、7–6）10 大同特殊鋼高蔵

得	【重機】		【高蔵】	得
0	衣笠	GK	大園	0
0	千葉（光）	GK	山本	0
0	青木	FP	更谷	0
4	卯野	FP	桐山	0
2	牛木	FP	清崎	6
2	荒井	FP	厚田	0
2	雨宮	FP	桑幡	0
2	奥山	FP	溝部	1
2	千葉（龍）	FP	道倉	2
0	佐藤	FP	小野	1
		FP	有林	0
14（2）		PT		（1）10

（審・斉藤、永山）

誠に恐縮ですが本大会を通じて感じた事は、本大会に参加する選手は全員普通の企業人であり、その他に他人より余分にスポーツを愛することに情熱を燃やしております。その強弱が大会の成績に素直に出てくる大会だと思います。どのチームを見ても体格にさほど差はなく、専問的にスポーツ選手を補強しておりません。情熱こそが体力、練習量さらにプレーの技術を磨き、勝つための最大の力だと実証してくれた大会であったと思います。

（神戸製鋼所監督　西村興八）

日本協会の動き

第三回全国理事会が開かれる、二月四日十三時より岸記念体育会館三〇一会議室において、保坂、徳永副会長出席のもとに、定員三十三名、現在数三十二名中二十三名が出席して開かれた。

冒頭　本年度新組織に改組したがと、荒川理事長の発言がなされた理事会は執行機関である観点より見ると、今日までの活動は機能的に不十分であると考える。

第一に、長期の計画に乏しい。長期展望から本年度は何をなすべきか。それをどんな方法で実施したら、より効果発な活動が、乏しい財源の中で生かされるか、これは各委員会が十分に討議して細案を持っていなければならない。

第二に、それが常務理事会で共通の理事をされ、代議員会に提案されるべきである。新年より更に機能的に活動されるように望む。

以下重要事項についてお知らせをします。

1、ブロック組織の強化策

各地方協会との関連をより円滑にするために、地区連盟を位置づけて強化したいとの提案であった。現在も各地域にまちまちではあるが規約なども作られているので、地方の特色を生かし不足は補って地区連盟規約を作成することを承認

2、全日本総合選手権大会の新構想

二十八回大会より新構想プランを打出し、四十回大会よりは、各都道府県を母体として選出される案であったが、現在各連盟に各大会があり、総合が年間の山となっていない。然し、各種大会をただちに排除していくことは困難である。従って来年度の三十回大会は、各連盟よりの推薦チーム数を各連盟何位までとし、社会人については、大会（クラブも含めた）を開催して何位までを入れるように改める

3、日本協会の財団法人他

日本協会の財政基盤は非常に弱い。例えば経常収入は約一六〇〇万円であるが、事務局費、補助金の負担金、会議費で一、一〇〇万円に到し、残り五〇〇万円で各委員会の事業を実施することになる。従って、強化委員会の活動費等が計上できない現状である。この際、財団他を含めて基盤固めをせねばならないこのためには、広く各層よりのご協力をいただき実現に努力したい。この案件は創立四十周年記念事業の一つとして実行に移すことに決定。

4、第三十三回国体都道府県大会実施要項作成について、

国体への参加が広く国民に解放されたため、各地方協会がまちまちに予選会を実施されては困乱をおこす心配があるため、日体協の指示により、実施要項を作成した。

特に留意すべき点は左記の通り

○国体参加のため一時登録ができるようになったこと。

○少年男・女の選抜チームの登録は予選会前までに手続きすればよいことになった。

○参加申込数を都道府県に一五名以内の範囲で委された。

○日本協会「アマチュア規定」並びに、日体協「アマチュア・スポーツの在り方」を尊守すること。

5、その他

○創立四十周年記念事業委員会は本日をもって廃止する。

嶋田理事は財務へ、柳井理事は広報へ配属替えをされた。

○現在理事数三十名（定数三十三名）であるので、編集委員会に小松原保彦氏を、審判委員会に岡前義春氏を会長推せん理事として追加した。

○審判委員長に新年度より岡前理事が当り前審判委員長安藤理事は、競技委員長に専任することになった。

競技規則改正点について

日本ハンドボール協会審判委員長
安藤純光

ＩＨＦは、すでに昨年九月から競技規則を改正している。一九七七年のコペンハーゲンにおけるＩＨＦレフェリーセントラルコースでは、新しいルールによって講習が行なわれている。そこで日本では、シーズン中半であり混乱を防ぐために六カ月おくれることになるが、昭和五十三年度より実施されることになる。

以下は、改正される主な要点である。なお新しい「競技規則書」は二月末に完成され、それによって三月五日に各都道府県審判委員長を集合して、中央研修会が行なわれる。そしてその後、各都道府県において伝達講習会が開催されることになっている。

昭和五十三年度競技規則改正点（昭和五十一年度版「競技規則書」を参照）

1：7　センターラインからそれぞれ4.5ｍの距離の競技場側にサイドラインに接して直角に15㎝のラインをひく。このラインは交替位置の限界を示す(第１・４図参照)

2：5　国際競技大会および国際競技（ＩＨＦ規約Ⅸ）には、ＩＨＦ公認の証印のあるボールを使用しなければならない。

3：3　競技に参加できるプレイヤーは、レフェリーがスローオフの笛を吹く時に、競技場にいるプレイヤーと競技に参加する資格が与えられる名簿にあるプレイヤーである。

競技開始時間に遅れたり、あるいは退場させられているプレイヤーは、スコアラーとタイムキーパーによって認められた後に、競技に参加することができる。

プレイヤーは、いつでも交替位置から競技に参加することができる（第1条の7参照）。

競技に参加する資格のないプレイヤーが競技に参加した時には、フリースローもしくはペナルティースロー（第14条の1ａ、ｂ、ｃ、ｄ参照）を相手チームに与えなければならない。そのプレイヤーは資格のあるプレイヤーと同じように罰せられなければならない。違反したプレイヤーは、どんな場合にも少なくとも失格させられなければならない（第17条の18、20参照）

3：4（原注）プレイヤーがサイドラインあるいはゴールラインを出た瞬間から失格と見なす。

3：5（原注）プレイヤーが故意に利益を目的として競技場を出た時には、レフェリーは相手側チームにフリースローを与える。

3：6　交替プレイヤーは競技中いつでも、また何回でもタイムキーパーに告げることなしに競技に参加することができる。交替プレイヤーが競技場に入る前に、交替させられるプレイヤーは競技場を出ていなければならない（フリースローあるいはペナルティースロー－第3条の7参照）。

プレイヤーは、自分の交替位置の範囲で競技場を出たり入ったりすることができる（第1条の7、第3条の3参照）。ゴールキーパーの交替も同じである。

競技が中断されている間の不正交替は、違反したプレイヤーを罰しなければならない（第3条の7第17条の16参照）。そして競技はその状態にふさわしいスローによって再開されなければならない（第4条の8参照）。

レフェリーによって中断されているときに限って、交替するプレイヤーは交替させられるプレイヤーが競技場の外に出ていなくとも入ることができる。

（注）「レフェリーによって中断されている……」とは、レフェリータイムをいう。

3：6（原注）削除

3：7　プレイヤーの最初の不正交替は、サイドラインを越えた地点からの相手側の相手側のフリースローによって罰せられなければならない。二回目以降のすべての不正交替の場合は、そのプレイヤーは2分間退場させられなければならない（第17条の16参照）

タイムキーパーは、ボールを保持しているチームが明らかな得点のチャンスのときのボールを保持していないチームの不正交替に対しては、笛を吹いてはならない。

得点のチャンスでない場合にはただちに競技を中断して、違反したプレイヤーを罰しなければならない。競技は、競技が中断されたときにボールのあった位置から、ボールを保持していたチームのフリースロー、あるいはそのときの状態にふさわしいスローによって再開される。

明らかな得点のチャンスが不正交替によって阻止されたならば、違反したチームはペナルティースローで罰せられなければならない（第14条の1ｂ）。違反したプレイヤーは失格されなければならない（第17条の18参照）。

不正交替のあとで非紳士的なプレイやふるまいをしたプレイヤーは、その犯した違反の種類によって、付加して罰せられなければならない（第17条の13、14、16、18参照）。

3：8　一チームのフィールドプレイヤーは、同一のユニフォームを着なければならない。

ゴールキーパーは、自分のチームと同じ様に、相手チームからもはっきり見分けることができる、独特のユニフォームを着なければならない（第17条の23参照）。

チームのキャプテンは、左の上腕に少なくとも4㎝幅のユニフォームの色と対照的な色の腕章をつけなければならない。

プレイヤーは、背中には20㎝大きさの、胸には10㎝の大きさの1～20の番号をつけなければならない。**№1・12と16はゴールキーパーがつける。**数字の色は、ユニフォームの地色とはっきり区別できるものでなければならない。

靴はごく軽いものを着用しなければならない。スパイクおよび鋲のついた靴を着することは禁止する。腕輪、腕時計、指輪、縁なし眼鏡、バンドその他、プレイヤ

ーを傷つけるおそれのあるものは禁止する。

レフェリーは、競技開始前に服装の検査をし、規則に反しているものは取り除かなければならない

3：8 （注）（一部改正）三人目のゴールキーパーは№16とする。この場合№15は欠番とする。

3：8 （注） キャプテンのつける腕章は、ひらひらしないように固定されていなければならない。

3：8 （注） ゴールキーパーのユニフォームは、自分のチームからも、相手チームからも（ゴールキーパーを含む）はっきり区別できるものでなければならない。

4：1 競技時間は次の通りである。

成年男子は、30分X2で間に10分の休憩をおく（トーナメントでは、15分X2で間の休憩なしで行なうこともできる）。

成年女子とジュニア男子は、25分X2で間に10分の休憩をおく（トーナメントでは、10分X2で間の休憩なしで行なうこともできる）。

その他のすべての種別では、20分X2で間に10分の休憩をおく（トーナメントでは、10分X2で間の休憩なしで行なうこともできる）。

休憩時間は、両チームとレフェリーが同意すれば短縮することができる。

4：1 （注） 「その他のすべての種別」とは、ジュニア女子・少年を云う。

「ジュニア男子」とは、高校男子・国民体育大会の少年男子をいう。

「ジュニア女子」とは、高校女子・国民体育大会の少年少女をいう。

「少年」とは、中学男子・女子および小学生をいう。

4：6 中断によって失なわれた時間に対する追加時間の長さは、レフェリーが決定する。タイムキーパーは時計を止め、再開とともに計時する。 （以下削除）

8：14 競技中ゴールキーパーがフィールドプレイヤーと交替するとき（第3条の1参照）には、レフェリーに通知しなければならない（ペナルティースロー）。 （中断削除）

フィールドプレイヤーは、ゴールエリアに入る前にユニフォームをかえなければならない（第3条の6参照）。

9：2 レフェリーが得点を宣し次のスローオフが行なわれたら得点の取り消しはできない。

競技時間の終了間近に、あるいはハーフタイムの終了間近に（延長戦の場合も）得点があり、次のスローオフが行なわれる前に競技時間が終ったときでも、その得点は認められる。レフェリーとオフィシャルは、その得点を認め、両チームのコーチに通告しなければならない。このときスローオフは行なわれる。

13：6 （原注） 削除

14：8 （原注） 削除

16：1 （原注） **スローが行なわれる前には、スロアーだけがボールに触れることができる。レフェリーは、すべての不正を正さなければならない。**

16：4 **競技が第4条の6の原注によるレフェリータイムのあと、レフェリータイムのあとのレフェリースローのあと、警告、退場（第17条の13、14、16）、あるいはプレイヤーを失格（第17条の20）または追放（第17条の18）させて競技を再開するとき、レフェリーは笛を吹かなければならない。**

16：9 （原注） **スローのとき、ボールは投げられなければならない。他のプレイヤーに手渡してはいけない（フリスロー）。**

17：1 すべての競技は二名のレフェリー（同じ権限を持つ）によって管理され、スコアラーとタイムキーパーによって補佐される。

17：7 (D) スローオフ・コーナースロー・ペナルティースローが行なわれるとき、キーパースロー・スローイン・フリースロー・ゴールスロー（第16条の10参照）とレフェリータイムのあとのレフェリースローのとき。

(G) 削除

17：11 （原注） **レフェリーだけが、各プレイヤーに対して警告する権限をもっている。**

17：13 （原注） **レフェリーが、プレイヤーあるいはチームの役員を警告するときには、明確に「黄色のカード」を示さなければならない。「黄色のカード」は、約6×11㎝の大きさである。**

17：14 競技場の内外において、スポーツマンシップに反する行為が行なわれた場合には、レフェリーは違反したプレイヤーを警告しなければならない（第17の13参照）。

スポーツマンシップに反する行為がくり返して行なわれたならば競技場内にいるプレイヤーは退場（第17条の16参照）、あるいは追放されなければならない。競技場の外にいるプレイヤーは、失格（第17条の18参照）させられなければならない。

ベンチにいるチームの役員も、レフェリーによって警告あるいは失格（第17条の18参照）させられる。重大な違反の場合には、プレイヤーは前に警告を受けていなくても退場（第17条の16参照）、失格（第17条の18参照）あるいは追放（第17条の20参照）させる。

競技がスポーツマンシップに反する行為のために中断されたならば、競技が中断されたときにボールのあった位置から、違反しなかったチームのフリースローによって再開される。このときレフェリーは、笛を吹かなければならない。

競技が中断されている間にスポーツマンシップに反する行為が行なわれる場合には、**競技はその中断の理由にふさわしいスローによって再開されなければならない。**

17：16 **プレイヤーは、一回目と二回目は二分間退場させられる。退場させられたプレイヤーは、退場時間中は交替することはできない。**

三回目の退場は二分間で、そのプレイヤーは失格（第17条の18）させられなければならない。そのチームは、退場の時間が終わるまで補充することはできない。

退場時間が前半の競技時間に終わらなければ、退場させられてい

るプレイヤーは、後半の競技時間のはじめから残りの時間を退場していなければならない。延長戦（第4条の9参照）のときには、延長戦のはじめから退場時間の残りを退場していなければならない。退場させられたプレイヤーは、退場時間の間ベンチにいなければならない。

退場時間は、違反したプレイヤーとタイムキーパーに明確に通告させなければならない。

すなわちレフェリーは、退場時間の合図のために二本の指を伸ばし、腕をあげなければならない。

退場時間は、競技再開のための笛から計時する。

17：16　（原注）削除

17：18　失格させられたプレイヤーあるいはチームの役員は、以後の競技の間追放され、ベーチを離れる。すなわち失格させられたプレイヤーあるいはチームの役員はベンチを去らなければならない。

プレイヤーが失格させられたならば、そのチームは競技場のプレイヤーを補充し、残っている交替プレイヤーで競技することができる（除く：第17条の16、三回目の退場のとき）。失格は、違反したプレイヤーとそのチームのコーチそしてスコアラーに正確に通告されなければならない。

17：20　追放されたプレイヤーは再び競技することはできないし、交替することもできない。そのプレイヤーは、ベンチを去らなければならない。

重大な違反の場合には、プレイヤーは前に退場させられていなくても追放される。

追放は、違反したプレイヤーとそのコーチ、そしてスコアラーに正確に通告されなければならない。

審判に関する留意事項

Ⅱ・競技に関する留意事項

9・「警告、退場」について

(2)警告を与えるときには、黄色のカードをもった手を上に高く上げ、もう一方の手で警告されるべきプレイヤーを指す。

(3)警告を与えるときには、警告を受けるプレイヤーの近くへ行って「警告」を徹底させなければならない。警告はオフィシャルにも明確に通告されなければならない。

10・「失格、追放」について

(1)三度目の退場は失格である（重大な違反を犯した場合には一回目で失格させることができる）。

失格したプレイヤーは追放されベンチからも去らなければならない。チームは二分の後、他のプレイヤーを補充して競技することができる。

(2)失格したプレイヤーは、ベンチからも去らなければならない。



以上で新年度より改正される競技規則について触れましたが、現在（51年度版）の競技規則書と充分照らし合わされた上で、ハンドボールを愛好される選手諸君らもハンドボール競技におけるルールの理解を更に深められ、常にフェアーな態度で試合に望まれることを、我々審判部として切にお願いする次第です。

世界へはばたけ日本のハンドボール

（協賛者御芳名・順不同）

議を重ね事業を推進している。

1．競技規則研究委員会

競技規則の研究と審判上（笛の吹き方）の問題点の研究，審判員用の用具・服装などの研究と作成，審判委員会事務（手帳の作成・毎奇数年度のＡ・Ｂ・Ｃ級登録など）の処理

2．審判審査委員会

Ａ・Ｂ級公認審判員の審査（書類・実技・ペーパーテスト）。国際審判員の推薦・全日本総合選手権大会審判員の決定。審判員研修会（ＪＨＡレフェリーコースを含む）の担当と大会視察（審判委員会施策の資料収集）。

3．審判委員会合同会議

審判委員会のすべての事業および問題について討議し決定する（競技規則・事業および予算，全日本大会審判員の決定など）。

審判委員会は，年間を通して多くの事業や会議をもっているが，これらはようやく定着し，すべてが計画的に運営されるようになっている。しかしすべてに問題がないわけではない。たとえば，規則研究委員会に例をとるならば審判委員会の事務処理に追われ，本来のルール研究のための時間が少ないのが現状である。この面を充実して，ＩＦから来るルールを受け入れるだけでなく積極的にルール改正の提案をするようにしなければならないであろう。審判委員会がもつべき会議や事業は，その量において一応ととのい定着したが，その内容（質）についてはさらに検討され充実されなければならないのである。

審判委員会は，次の事業を実施している。

1．公認審判員研修会

毎年3回，大会（高校・教職員・国体）会場において，テーマを設けて研修を行ない，審判技術の向上とルール解釈の統一を目指している（53年度は福島・宮崎・長野において開催する）。

2．ＡＢ級公認審判員の審査

毎年1回，東京において開催（実技・ペーパーテスト）。日本リーグの開催などで競技数が増大している一方レフェリーの停年制（50才）などもあり，全く不足しているのが現状である。相当する技術を貯えた多くの受験者の参加が望まれる（53年度は6月7・8・9日に開催する）。

3．ＪＨＡレフェリーコース

毎年前期・後期にわたって開催する。昭和52年度より新設された事業で，若い優秀な技術をもつレフェリーを育成することを目的としている。2年にわたって合同会議で検討しスタートしたのであるが，コースの運営・事後処置の問題など研究改善されなければならない点がある（53年度は，前期3月29・30・31日の3日間，後期8月中旬～下旬の予定）。

4．公認審判員中央研修会

昭年53度より制度を多少変更し，ルール改正が行なわれる年には従来のように各都道府県審判委員長・ブロック審判委員長・各連盟審判委員長・競技規別研究委員・審査委員そして審判委員長が一堂に会して研修を行なう。改正のない年（54年度）は，各ブロック毎に開催する。各都道府県審判委員長は，終了後に各都道府県において伝達講習を行なわなければならない。

以上，将来への方向を交えて，審判委員会の現状のあらましを述べた。現在検討が行なわれているものは，申請書の改訂・記録用紙の改訂タイムキーパースコアラーの制度化などである。

日本ハンドボール協会審判委員会は，将来に向ってますます充実されなければならない。このためには，委員会に属する委員だけが活動すれば達成できるものではなく，1人1人のレフェリーの協力によって組織が確立され強化されるのである。さらに充実した審判委員会にするために，笛をもつすべての人々の絶大な協力を期待する。

!!11年の長期にわたって，強力な協力とはげましをくださいました諸兄に深く感謝して!!

3　垂直とびでは，トップ・プレイヤーとサイド・プレイヤーの値が低値を示し，ゴール・キーパーとセンター・プレイヤーの値がポジション別にみると高い能力を示したものの，一般高校生の同年代と比較すると低値を示し，能力の低さがうかがえた。

4　反復横とびでは，サイド・プレイヤーと他のポジションとを比較すると，差があるとは認められないものの一般高校生の同年代と比較すると低値を示し，能力の低さと，ハンドボール競技の体力要素となる能力の不足がうかがえる。

5　立位体前屈では，ゴール・キーパーの能力が高く，サイド・プレイヤーの能力がきわめて低く，一般高校生の同年代の値と比較するにいずれのポジションも低い能力である。

6　総括的にみると，握力，背筋力の他は一般高校生の同年代より能力が低くスポーツ選手の体力要素の低くさがうかがえる。

参考文献

1）新立義文，小郷克敏，沢田芳男；女子ハンドボール競技者の体格，体力および体型に関する研究，一オリンピック・ハンドボール月本代表選手の体格および体力について一

2）望月，小沢，戸村島崎；昭和50・51年度体力・運動能力調査報告書，文部省体育，昭52

3）文部省体育局；昭和48年度体力・運動能力調査報告書，昭49，

4）平山宗宏ほか；講座理代と健康，年齢と健康，大修館，東京，昭48，212～231

5）木村邦彦；ヒトと発育，メデイカルフレンド社東京昭48，180～232

6）鈴木和悦，高木健太郎女編性の思春期，からだの科学，日本評論社，1976，No. 67，68～78

7）猪飼道夫ほか；種目別理代トレーニング法；大修館東京，昭43。

8）猪飼道夫ほか；現代トレーニングの科学大修館，東京，164～204。

審判委員会の現状と将来

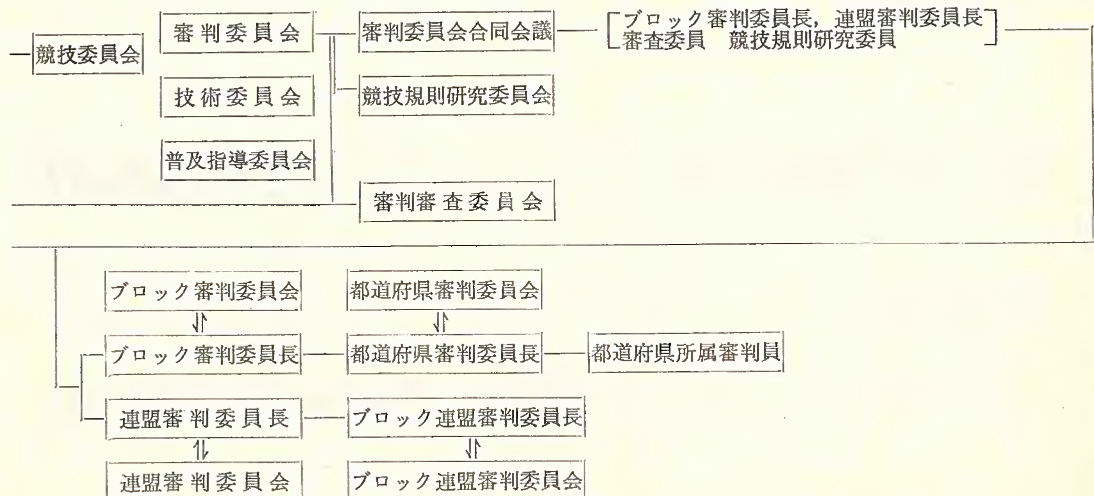
審判委員長　安　藤　純　光

日本ハンドボール協会は，創立40周年を迎えた。この際に現状を分析し，把握することによって将来のあるべき姿を求めることは，有意義なことである。

日本ハンドボール協会は，昭和52年度のスタートにあたり従来の組織を打ちだしたことは，すでに機関誌などを通して周知の通りである。これによれば，審判委員会は過去10年来次のように組織されつつある。

組織の充実は審判委員会の確立のための重要なポイントである。現状は，この組織がすべて充分に確立され機能しているとはいえない。日本ハンドボール協会審判委員会は，年を追うごとに充実されつつあるが，これを支える各ブロック審判委員会・各都道府県協会審判委員会・各連盟審判委員会が確立されることによって，円滑な運営を期待することができる。各委員会は，単なる連絡的連絡機関であってはならない。その性質上指導的（レフェリーの育成）な役割も果さなければならない。

日本ハンドボール協会審判委員会は，前述のような会議および委員会をもち，それぞれは次のような研究と協



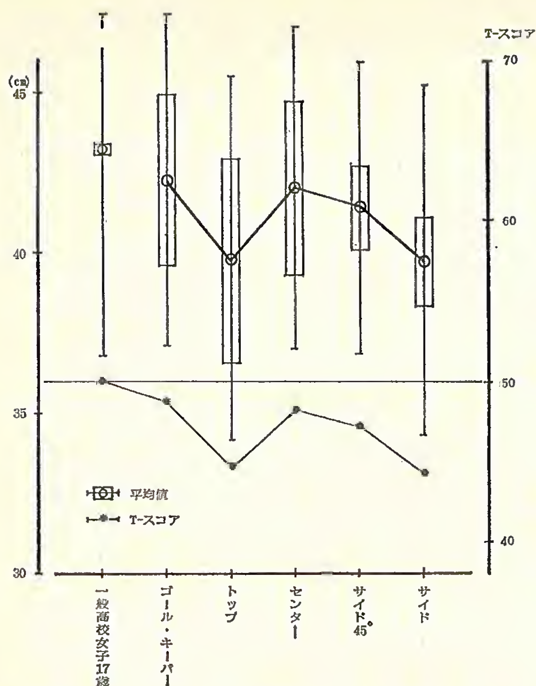


図 3　ポジション別垂直とびの平均値および17歳女子を基準としてT―スコア

は，垂直とびの能力の開発とともにトレーニング方法[8])や処方[7)8)]について十分考慮されるべき点であろうと考える。

5　立位体前屈について

立位体前屈を，一般高校生該当年齢期の最も高値を示す17歳の値る基準としてT―スコアでみると，図5に示すとおりであり Goal Keeper の値が 54.71と一般高校生の値より高値を示すものの，その他のポジションでは低値を示し Side は 41.59ときわめて低く，一般高校生該当年齢の最も低値を示す15歳の値よりも低値（$p<0.01$）である。

このことは，柔軟性の示標となる立体前屈がハンドボール競技の体力要素として直接に関与することはないにしても，スポーツ運動の競技力向上の体力要素の面から推測すると，この能力が低ことはきわめて重要なことでハンドボール競技者にとってはマイナス面が大きいのではなかろうか。

まとめ

思春期にある高校女子ハンドボール選手の体力について，ポジション別に能力を検討し次のような結果を得た。

1　握力左右平均値は，サイド・プレイヤーでは他のポジション・プレヤーの値に比較すると最も小さく，ゴール・キーパーと 45° サイド・プレィヤーの値が高く能力の高値がうかがえた。

2　背筋力は，ゴール・キーパの能力値がいずれのポジション・プレヤーの値よりも大きく，サイド・プレイヤーの値が最小値であったが，ポジション間に有意な差があるとは認められなかった。また，一般高校生の同年代の値より高値であり，能力が高いことが推測された。

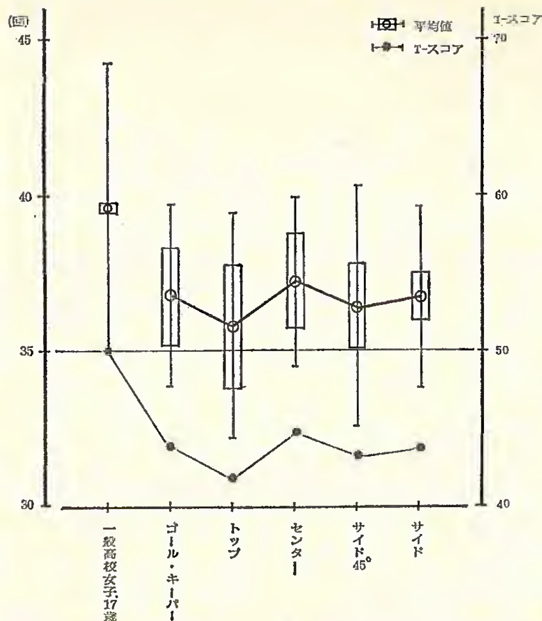


図 4　ポジション別反復横とびの平均値および17歳女子を基準としたT―スコア

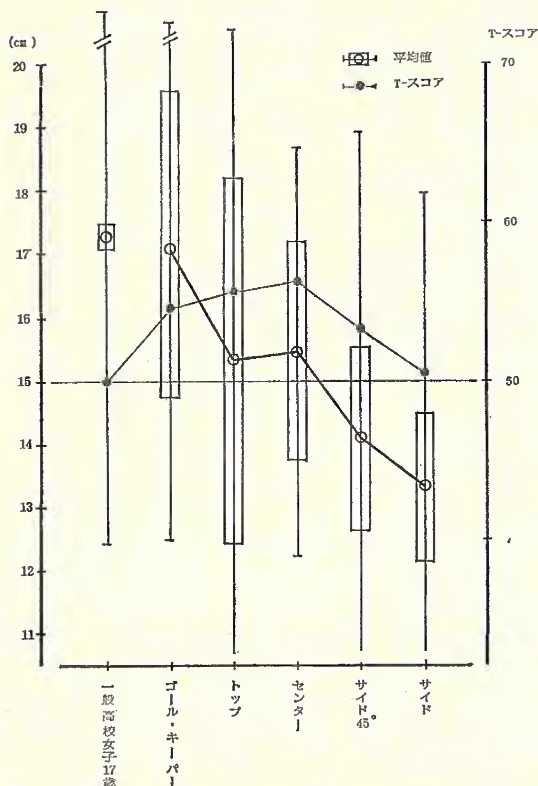


図 5　ポジション別立位体出屈の平均値および17歳女子を基準としたT―スコア

Center の値が次いでおり，Side の値が最小値であるものの Side の値とそれぜれの間とには有意な差があるとは認められない。

反復横とびでは，Centerの値が最も大きい値であり，Top の値が最小値を示しているものの背筋力や垂直とびと同様，それぞれの間の有意な差があるとは認められない。

立位体前屈では， Goal Keeper の値が最も大きく，次いで Center の値であり， Side の値が最小値を示しており，Goal Keeper との間には 0.1％の危険率で有意の差が認められるものの，他との差は認められない。

考　察

1　握力について

握力の左右平均を高校生該当年齢期の最も大きい値を示す18歳を基準としてT―スコアでみると，図1に示すとおりである 45° Side のT―スコアが 52.53であり，Goal Keeper のT―スコアは51.92である。 Top と Center はほとんど差はなく， Side では，45.64と低値

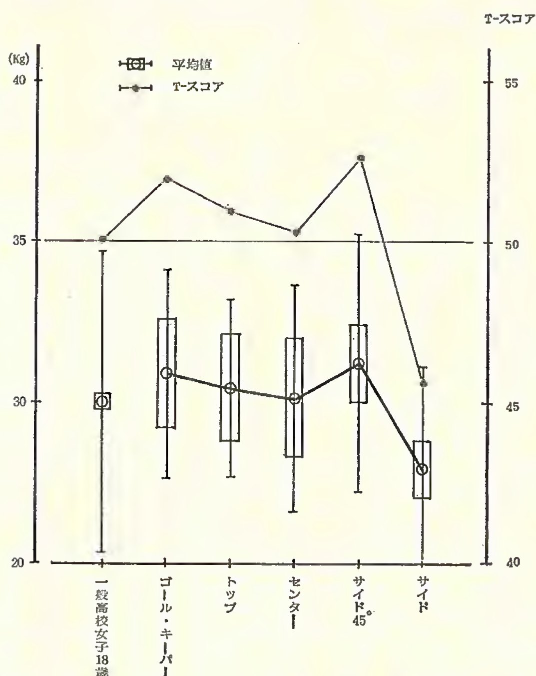


図1　ポジション別握力平均値および18歳女子を基準としたT―スコア

を示している。このことから推測すると，一般の高校生の最も体力のある時期よりもやや劣性がうかがえるが，被験者が二次成長の充実期[4)5)] に入る，前期であることから考えるとうなづけないこともないが，トレーニングについて考慮すべき点を多く示唆しているもののようである。

2　背筋力について

背筋力を一般高校生該当年齢期の最も高値を示す17歳の値を基準としたT―スコアをみると，図2に示すとおりで各ポジションの中で最も低い値を示す。SideのT―スコアでも 51.81 とわずかに一般の高校生の値より上回っている。その他のポジションでは Goal Keeper で 55.37，Top で 54.0，Center で 54.41，45° Side で 54.50と優性であり，背筋力の強さがうかがえる。

3　垂直とびについて

垂直とびを一般高校生該当年齢期の最も高値を示す17歳の値を基準としてT―スコアでみると図3に示すとおりで，いずれのポンジションの値も低値を示し，ことに Side および Top の値は44.13と44.6低く能力の低劣性がうかがえる。このことを一般の高校生該当年齢期の最も低い15歳の値と比較してもかろうじて，Goal Keeper Center の値に差がみられないものの，球技に要求される垂直とび能力の低さは，競技力向上についての多くの問題点を示唆しているものと考える。

4　反復横とびについて

反復横とびを一般高校生該当年齢期の最も高値を示す17歳の値を基準としてT―スコアでみると図4に示すとおりでいずれのポンジションでも低値を示しており，ことに Top は， 41.83 ときわめて低い，また，ポンジション間の差はいずれの間にも有意な差があるとは認められない。

しかしながら，反復横とびの能力はハンドボール競技者にとってはきわめて重要な体力要素であることからすれば，たとえ，測定の時期が被験者の能力が充実期前であるとはいえ，一般高校生。能力よりも低値であること

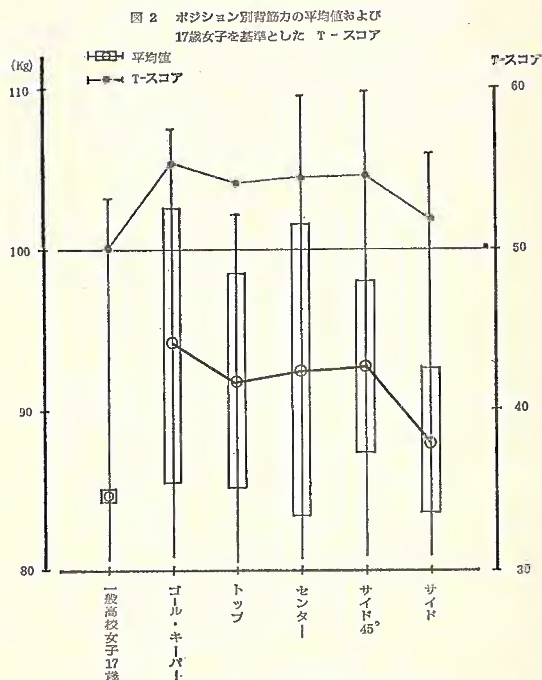


図2　ポジション別背筋力の平均値および17歳女子を基準としたTスコア

女子ハンドボール競技者の体格，体力および体型に関する研究（下）

第２報　高校女子ハンドボール選手のポジション別形態について

新　立　義　文
（熊本県立教育センター）

沢　田　芳　男
（熊本大学体質医学研究所）

はじめに

高校女子のハンドボール選手のポジション別の形態については，前報[1]の第１報で報告したが，今回は，同選手らの体力についての結果を得たので報告する。

測定項目

測定項目[2]は握力(左)，(右)，両手平均，背筋力，垂直とび反復横とび，立位体前屈の７項目である。対照となった一般高校生女子の体力の平均値[2]（x），および標準偏差[2]（s）は表１に示すとおりである。

方　法

文部省の体力診断テスト実施要領[3]にもとづいて実施した。

成　績

１　体力示標について，

体力示標のポジション別の平均値($\bar{x}$)，標準偏差(s)不偏分散推定量および一般高校生女子の最高年齢値を基準とした。ポジション別のスコアは表２のとおりである。

表２に示すとおり，握力では各ポジション間での値は左右の平均値とも45° Side の値が大きく，Side の値が最小値を示しており，握力平均値で Side とそれぞれとの間では，Goal Keeper と 45° Side との間で0.1%の危険率で，Top と Center との間で１%の危険率で有意の差が認められる。

表背筋力では，Goal Keeper の値が最も大きく，次いで 45°Side で，Side の値が最小値を示しているものの Side の値とそれぞれの間には有意な差がいるとは認められない。

垂直とびでは，Goal Keeper の値が最も大きく，

		G・K	TOP	Center	45° Side	Side
握力(右)(kg)	n	17	15	16	45	62
	$\bar{x}$	29.73**	29.60**	28.91N.S	29.88***	27.03
	s	4.25	2.76	4.13	4.97	3.27
	u^2	19.1912	8.1857	18.1740	17.1698	10.8434
	≦m≦	27.54 ≦m≦ 31.92	28.07 ≦m≦ 31.13	26.71 ≦m≦ 31.11	28.39 ≦m≦ 31.37	26.21 ≦m≦ 27.85
握力(左)(kg)	n	17	14	16	45	62
	$\bar{x}$	32.09***	13.39N.S	31.38*	32.80***	29.12
	s	3.12	3.86	3.50	4.45	4.12
	u^2	10.3513	16.0462	13.0500	20.3227	17.2764
	≦m≦	30.49 ≦m≦ 33.69	29.16 ≦m≦ 33.62	29.52 ≦m≦ 33.24	31.46 ≦m≦ 34.14	28.08 ≦m≦ 30.16
握力(平)(kg)	n	17	13	16	44	61
	$\bar{x}$	30.91***(51.92)	30.44*(50.91)	30.14*(50.29)	31.20***(52.53)	27.93
	s	3.26	2.76	3.45	3.98	3.28
	u^2	11.3037	8.2242	12.7240	19.2474	10.9618
	≦m≦	29.23 ≦m≦ 32.59	28.77 ≦m≦ 32.11	28.30 ≦m≦ 31.98	29.99 ≦m≦ 32.41	27.09 ≦m≦ 28.77
背筋力(kg)	n	17	15	16	45	61
	$\bar{x}$	94.18N.S(55.37)	91.8N.S(54.00)	92.5N.S(54.41)	92.67N.S(54.50)	87.98(45.64)
	s	16.32	12.17	17.06	17.73	17.92
	u^2	282.9057	158.6029	310.4000	321.5939	326.3169
	≦m≦	85.79 ≦m≦102.57	85.06 ≦m≦ 98.54	83.41 ≦m≦101.59	87.34 ≦m≦ 98.00	83.45 ≦m≦ 92.51
垂直とび(cm)	n	17	15	16	46	63
	$\bar{x}$	42.29N.S(48.56)	39.8N.S(44.60)	42.00N.S(48.09)	41.41N.S(47.16)	39.68(44.13)
	s	5.14	5.65	5.09	4.49	5.48
	u^2	28.0960	34.1719	27.7328	20.6488	30.5429
	≦m≦	39.65 ≦m≦ 44.93	36.67 ≦m≦ 42.93	39.29 ≦m≦ 44.71	40.08 ≦m≦ 42.74	38.32 ≦m≦ 41.04
反復横とび(回)	n	17	14	16	46	63
	$\bar{x}$	36.82N.S(43.93)	35.86N.S(41.83)	37.15N.S(44.65)	36.45N.S(43.12)	36.71(43.69)
	s	2.93	3.52	2.68	3.87	2.92
	u^2	9.1549	13.3622	7.8079	15.3203	8.6589
	≦m≦	35.31 ≦m≦ 38.33	33.83 ≦m≦ 37.89	35.72 ≦m≦ 38.58	35.30 ≦m≦ 37.60	35.98 ≦m≦ 37.44
立位体前屈(cm)	n	17	15	16	46	62
	$\bar{x}$	17.71***(54.71)	15.30N.S(45.76)	15.48N.S(46.14)	14.10N.S(43.21)	13.34(41.59)
	s	4.67	5.18	3.22	4.84	4.61
	u^2	23.2186	28.7429	11.0403	23.9020	21.5800
	≦m≦	14.77 ≦m≦ 19.57	12.43 ≦m≦ 18.17	13.76 ≦m≦ 17.20	12.66 ≦m≦ 15.54	12.17 ≦m≦ 14.49

※　*…5%，**…1%，***…0.1%，の危険率でSideと比較して有意な差が認められるもの、NSは有意な差が認められないもの。（　）内の数値は、昭和51年度全国値の高校学齢期の最高値を基準としたTースコア。

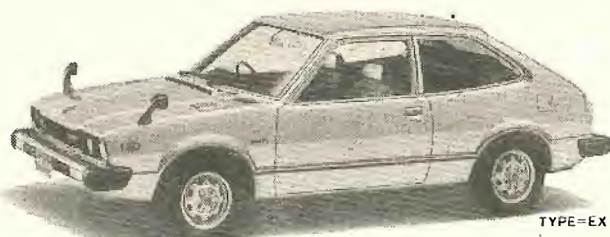
		握力 (x̄)(Kg) n	x̄	S	u²	背筋力 (Kg) n	x̄	S	u²	反復横とび (cm) n	x̄	S	u²
男子	15歳	779	41.5	7.08	50.1765	779	122.7	23.02	529.2403	779	43.8	5.05	25.47
	16歳	719	44.2	6.40	41.0171	719	130.9	23.41	547.2658	719	44.5	4.95	24.46
	17歳	792	45.3	6.86	71.1191	792	◎136.6	23.11	533.3979	792	45.0	5.19	26.90
	18歳	2.259	◎45.6	6.34	40.1778	2.258	133.1	24.69	609.3262	2.257	◎45.1	5.30	28.07
女子	15歳	736	28.4	5.94	35.2356	737	78.6	17.37	301.3075	738	38.5	4.14	17.12
	16歳	697	29.2	6.19	38.2611	695	81.1	16.72	279.1566	697	39.0	4.30	18.46
	17歳	788	29.1	5.03	25.2687	788	84.8	17.48	305.1626	787	◎39.6	4.58	20.95
	18歳	1.835	◎30.0	4.75	22.5502	1.831	84.5	18.62	306.5150	1.833	39.2	4.70	22.08
		垂直とび (cm) n	x̄	S	u²	上体そらし (cm) n	x̄	S	u²	立位体前屈 (cm) n	x̄	S	u²
男子	15歳	779	57.4	7.87	61.8574	778	55.4	8.41	70.6371	779	14.1	5.38	28.9072
	16歳	719	59.4	8.03	64.3912	719	58.0	7.97	63.4325	717	15.1	5.41	29.2273
	17歳	792	◎61.3	7.79	60.6075	792	◎59.6	7.65	58.4486	791	15.7	5.17	26.6951
	18歳	2.250	60.3	7.85	61.5951	2.250	57.7	7.81	60.9690	2.251	15.2	5.26	27.6553
女子	15歳	738	42.9	6.37	40.5219	738	57.7	7.17	51.3392	736	15.7	4.88	23.7820
	16歳	697	42.9	6.15	37.7682	697	58.2	7.15	51.0492	697	16.4	4.93	24.2700
	17歳	788	◎43.2	6.30	39.6396	788	◎59.1	7.10	50.3460	787	◎17.3	4.71	22.1559
	18歳	1.836	41.7	6.35	40.3005	1.836	57.7	7.25	52.5339	1.831	17.2	4.94	24.3903

※◎印は15歳～18歳までの間での最高値を表わす。　　（出所：昭51年度　文部省体力．運動能力調査報告書）

Create Your New World with ACCORD

'76 CAR OF THE YEAR
モーターファン誌主催
年間最優秀自動車賞受賞
ホンダ・アコードEX-5

ACCORDとは「調和」「一致」です。
機能重視、人間尊重、そして環境保持。
こうしたテーマを高い次元で調和させました。
多用途・多目的に余裕をもって活用できる機能と
乗る人の心情に深くマッチした
快適さの実現です。
大人の感覚で磨きあげた車。
あなた自身の新しい世界を創造する車。
それがホンダ・アコードです。


TYPE=EX

HONDA®
●シートベルトを締めましょう

ゆとりと調和のアダルト・カー
ACCORD®
CVCC

型式B-SJ・全長4.125m(EX・LX・GL)・全幅1.620m・全高1.340m・軸距2.380m・輪距　前1.400m後1.390m・CVCC水冷4サイクル直列4気筒OHC・総排気量1,599cc・最高出力80ps/5,300rpm・最大トルク12.3kg-m/3,000rpm・燃費21km/ℓ(5速ミッション車60km/h定地走行テスト値)・10モード燃費10.5km/ℓ(運輸省審査値)・四輪ストラット方式独立懸架●51年排出ガス規制適合車。



本田技研工業㈱鈴鹿製作所
三重県鈴鹿市平田町1907　☎<0593>78-1212　〒513

春の大会へ、各地で激戦

高校プレイヤー待望の春の選抜大会は、いよいよ3月26日から名古屋の愛知県体育館で全国各ブロックの代表によって争われるが、これに先立って、各地域で本大会を目指す代表選考会が行われ、若さにあふれた熱戦をくりひろげた。（太字が代表校）

北海道

（52年12月25、26日・函館市）

▼男子1回戦
恵庭南 12（5―5 7―6）11 旭川東
函館中部 22（9―5 13―5）10 留萠
紋別北 18（9―5 9―4）9 札幌西
▽同準決勝
函館有斗 21（11―2 10―3）5 恵庭南
函館中部 17（9―8 8―6）14 紋別北
▽同決勝
函館有斗 25（13―6 12―2）8 函館中部
▼女子1回戦
恵庭南 14（8―7 6―6）13 釧路湖陵
釧路商 11（6―2 5―3）5 上磯
▽同準決勝
函館商 19（11―2 8―4）6 恵庭南
函館女商 4（2―1 2―1）2 釧路商
▽同決勝
函館商 7（2―4 5―2）6 函館女商

東北

（1月20・21日、秋田市県立体育館）

▼男子1回戦
花巻北（岩手）18（11―1 7―6）7 大曲農（秋田）
古川（宮城）16（8―6 8―4）10 大石田（山形）
▽同準決勝
学法石川（福島）7（2―4 5―2）6 花巻北
青森（青森）9（5―5 4―2）7 古川
▽同決勝
学法石川 10（6―2 4―1）3 青森
▼女子1回戦
涌谷（宮城）6（4―1 2―4）5 郡山女（福島）
花巻北（岩手）10（3―2 7―1）3 竹田女（山形）
▽同準決勝
涌谷 12（5―3 7―1）4 青森西（青森）
大曲農（秋田）7（4―3 3―3）6 花巻北
▽同決勝
涌谷 10（8―0 2―3）3 大曲農

北信越

（1月15、16日、金沢美工大体育館）

▼男子1回戦
北陸（福井）14（7―2 7―4）6 大聖寺（石川）
氷見（富山）20（10―7 10―6）13 北陸
坂城（長野）23（12―6 11―5）11 中越（新潟）
▽同準決勝
（前記）
▽同決勝
氷見 11（8―3 3―3）6 坂城
▼女子1回戦
小諸商（長野）8（6―3 2―1）4 新潟江南（新潟）
▽同準決勝
小諸商 10（6―0 4―1）1 小杉（富山）
小松市女（石川）10（4―3 6―2）5 仁愛女（福井）
▽同決勝
小松市女 7（6―1 1―1）2 小諸商

関東

（2月5日・浦和市高体育館）

▼男子決勝
富岡（北関東・群馬）10（5―3 5―5）8 中大付（南関東・東京）
▼女子決勝
栃木女（北関東・栃木）15（8―2 7―4）6 昭和学園（南関東・千葉）

◇北関東大会（1月22日・土浦）
▽男子1回戦（＝準決勝）
川口北（埼玉）21―13 石橋（栃木）
富岡（群馬）12―9 麻生（茨城）
▽同決勝
富岡 16―14 川口北
▽女子1回戦（＝準決勝）
群女短大付（群馬）5―4 磯原（茨城）
栃木女（栃木）11―2 行田女（埼玉）
▽同決勝
栃木女 9―8 群女短大付（延長）

◇南関東大会（1月22日・横浜）
▽男子1回戦（＝準決勝）
中大付（東京）18―9 佐原（千葉）
法政二（神奈川）15―10 日川（山梨）
▽同決勝
中大付 15―13 法政二
▽女子1回戦（＝準決勝）
山梨（山梨）7―3 明倫（神奈川）
昭和学院（千葉）7―6 佼成女（東京）
▽同決勝
昭和学院 8―3 山梨

東海

（2月19日・愛知県体育館）

▼男子決勝リーグ
県岐商高 14（9―6 5―5）11 土肥高

四日市工高 15（10－7、5－7）14 土肥高
県岐商高 13（8－2、5－5）7 四日市工高
①県岐商高②四日市工高③木肥高
（県岐商高は初優勝）

▼女子決勝リーグ
暁高（三重）9（7－3、2－6）9 県岐商高
引き分け
静岡城北 15（9－1、5－4）5 暁高
静岡域北 7（4－3、3－2）5 県岐商高
①静岡城北②暁高③県岐商高
男子代表　県岐商高　女子代表　静岡域北高

近畿

（2月11、12日、大阪豊中高校）

▼男子1回戦
生駒（奈良）14（4－3、10－3）6 東山（京都）
八幡工（滋賀）17（9－8、8－5）13 西宮北（兵庫）
▽同準決勝
此花学院（大阪）25（13－2、12－6）8 生駒
御坊商工（和歌山）11（6－5、5－4）9 八幡工
▽同決勝
此花学院 30（13－3、17－6）9 御坊商工

▼女子1回戦
城南学園（大阪）8（3－3、5－4）7 乙訓（京都）
彦根南（滋賀）10（5－4、5－2）6 一条（奈良）
▽同準決勝
城南学園 9（5－3、4－2）5 鈴蘭台（兵庫）
御坊商工（和歌山）8（1－4、7－1）5 彦根南
▽同決勝
城南学園 8（6－2、2－5）7 御坊商工

中国

（1月22日、山口県岩陽高校）

▼男子1回戦（1試合）
岩国工（山口）30（15－5、15－3）8 松江工（島根）
▽同準決勝
岩国工 15（8－2、7－8）10 修道（広島）
倉敷天城（岡山）15（7－4、8－4）8 境港工（鳥取）
▽同決勝
岩国工 19（12－4、7－3）7 倉敷天城

▼女子1回戦（1試合）
徳山（山口）15（6－1、9－2）3 倉敷天城（岡山）
▽同準決勝
徳山 9（3－0、6－0）0 倉吉産業（鳥取）
山陽女（広島）12（6－0、6－1）1 浜田商（島根）
▽同決勝
徳山 7（3－3、2－2：1－1、0－0：1－1、0－0）7 山陽女
PTC3－2で徳山の勝ち

四国

（2月19日・香川高松商高）

▼男子1回戦（＝準決勝）
徳島城北（徳島）11（3－5、8－4）9 追手前高（高知）
新浜工高（愛媛）11（9－4、2－5）9 高松工芸（香川）
▽同決勝
新浜工高（愛媛）30（16－1、14－6）7 徳島城北（徳島）

▼女子1回戦（＝準決勝）
新浜市商（愛媛）20（9－0、11－1）1 高松南高（香川）
中芸工高（高知）4（3－2、1－1）3 高岡東高（徳島）
▽同決勝
新浜市商（愛媛）18（9－1、9－1）2 中芸工高（高知）

九州

（2月12日・熊本水前寺体育館）

▼男子1回戦
熊本マリスト（熊本）16（8－8、8－6）14 佐世保西（長崎）
大分電波（大分）14（6－5、8－6）11 都城泉ケ丘（宮崎）
浦添（沖縄）19（8－4、11－8）12 神埼農（佐賀）
久留米大付（福岡）23（13－5、10－5）10 財部（鹿児島）
▽同準決勝
熊本マリスト 18（8－9、10－8）17 大分電波
久留米大付 13（9－8、4－2）10 浦添
▽同決勝
久留米大付 21（10－5、11－8）13 熊本マリスト

▼女子1回戦
東海大五（福岡）9（4－2、2－4：1－0、2－0）6 浦添（沖縄）
国分実業（鹿児島）5（3－2、2－2）4 小林商（宮崎）
佐賀女（佐賀）17（7－3、10－1）4 佐世保商（長崎）
熊本女（熊本）13（6－4、7－6）10 大分東（大分）
▽同準決勝
国分実業 15（8－3、7－3）6 東海大五
熊本女 16（6－4、10－4）8 佐賀女
▽同決勝
熊本女商 13（6－4、7－6）10 佐賀女

★編集後記★

厳しい寒さもかなり柔ぎ、過しやすくなってまいりました。

さて今月二十六日(日)より三日間名古屋にて行なわれます、初の高校選抜大会が開催されることになりますが、この大会を機にこれからより発展することを、大会運営関係者各位の皆様方にご協力をお願いするとともに、我々ハンドボール愛好家としましても大いなるバックアップをしていこうではありませんか……。

（小松原）

音のコンビネーションプレー

2ウエイ・4スピーカー（12cmウーハー×2＋5cmツイーター×2）からあふれ出す、出力3.8W（EIAJ/DC）のステレオサウンドは、高音と中・低音のコンビネーションサウンド。



音が広がるステレオサウンド

ステレオ パディスコ5280 ¥44,800

TRK-5280

いい音はステレオで鳴らしたい

ステレオサウンドを支えるメカニズム

- より音の広がりを感じるステレオ（マトリックス）方式
- クリアな音を再生するITL・OTL回路
- FM放送が冴えるFMマルチ回路内蔵
- ラウドネス回路で音のバランスを自動補正
- FMワイドバンド（76～108MHz）帯採用
- （クロム/ノーマル）テープセレクター採用
- 専用外部スピーカー（別売りAPS-80 2本セット¥11,800）接続可能
- FM/AM2バンドラジオつき
- 大きさ幅42.2×高さ23.3×奥行11.7(cm)
- 重さ4.7kg（乾電池含む）
- キャリングケース（別売りL-5280¥4,000）

★「日立カセットレコーダーの保証書」は、必ずお受けとりください。お買い上げの際に販売店名、ご購入の年月日が記入されているかをお確かめになり、大切に保存してください。

★カタログ請求は、〒105東京都港区西新橋2-35-6 第3松井ビル 日立家電販売株式会社宣伝部パディスコ係へ。

★カセットレコーダーで録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

品質を大切にする〈技術の日立〉

HITACHI CASSETTE RECORDER

HITACHI

日立家電販売株式会社 〒105 東京都港区西新橋2-15-12(日立愛宕別館) TEL(03)502-2111

日立クレジット株式会社 〒105 東京都港区西新橋2-15-12(日立愛宕別館) TEL(03)503-2111

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一六一号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和[illegible]年二月二十五日印刷 昭和五三年三月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京都渋[illegible]神南一—一—一
電話 代[illegible](467)七〇九七
振替 東京 五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
定価 三百五十円（年間購読料 三千三百円）